

# トランプ時代の 日中関係 第三回日中大学生討論会

編・・・名古屋外国語大学

はじめに

「日中大学生討論会」開会の挨拶

日中関係のあるべき姿を 亀山郁夫（名古屋外国語大学学長）  
国の交わりは民の親しさにあたる 李穎（中華人民共和国駐名古屋総領事館領事）

第一部 両国大学生八人の徹底討論

第一章 討論会のはじめに

趣旨説明／自己紹介

第二章 トランプ政権誕生と日中両国への影響

トランプ政権の影響をどう見る／日中は対立か協力か／相手国のイメージ

第三章 日中の課題をどう克服するか

尖閣諸島の領土問題／歴史問題をどう考える

第四章 日中両国の交流と協力

知中派、知日派を増やす／本当の日本を伝えたい／互いのいいところを発見

／大規模な民間交流を／共通の歴史教科書を／お互いの言語の勉強を

／中国も日本人向け観光ルートを

第二部 識者コメント

民主的なるものを考えよう 高瀬淳一（名古屋外国語大学世界共生学部学部長）

相互理解を深めるための努力を 真家陽一（名古屋外国語大学中国語学科教授）

質疑

総括 川村範行（名古屋外国語大学外国語学部特任教授）

閉会挨拶 俞晓軍（名古屋外国語大学外国語学部中国語学科長）

終わりに 交流パーティーでの声

トランプ時代の日中関係 第三回日中大学生討論会

編／名古屋外国語大学

# 目次

はじめに 1

「日中大學生討論会」開会の挨拶 2

日中関係のあるべき姿を 亀山郁夫（名古屋外国語大学学長） 2

国の交わりは民の親しさにあたる 李穎（中華人民共和国駐名古屋総領事館領事） 3

第一部 両国大學生八人の徹底討論 5

第一章 討論会のはじめに 6

1、趣旨説明 6

2、自己紹介 8

第二章 トランプ政権誕生と日中両国への影響 12

1、トランプ政権の影響をどう見る 12

日中は安全保障のジレンマに 12 / 日中関係は緩和に 13 / 「一帯一路」やパリ協定で日中協力を 14

2、日中は対立か協力か 16

日中は安全保障のジレンマに 17 / 日中韓の自由貿易協定促進へ 17

3、相手国のイメージ 19

日本に行く夢を実現 19 / 「嵐」が好き、羽生結弦君が好き 20 / 進んでいる電子決済、中国人のマナー

が問題 22 / 抗日ドラマの内容は？ 22 / 中国の台頭に不安感、評価すべき中国のIT 22 / 日本でもモバ

イル決済を可能に 23 / メイドインジャパンを買う 24 / 大連でタクシー代まで払ってくれた中国人 24

第三章 日中の課題をどう克服するか 26

1、尖閣諸島の領土問題 26

問題棚上げではなく、踏み込んだ議論を 26 / 国を守る、譲れない 27 / 両国で島の共有を 28 / ポツダム宣言、カイロ宣言にさかのぼる 28 / 島の主権は譲れず、資源の共有を 29 / 島の問題はグレーに 30 / 島の共同開発を 30

2、歴史問題をどう考える 32

罪に向き合い次世代に伝える 32 / 総理の靖国参拝は国際的に批判 33 / A級戦犯を密かに合祀、困難な分祀 33 / 南京事件をどう捉えるか 34

第四章 日中両国の交流と協力 35

知中派、知日派を増やす 35 / 本当の日本を伝えたい 36 / 互いのいいところを発見 37 / 大規模な民間交流を 38 / 共通の歴史教科書を 39 / お互いの言語の勉強を 39 / 中国も日本人向け観光ルートを 40

第二部 識者コメント 42

民主的なるものを考えよう 高瀬淳一（名古屋外国語大学世界共生学部長 アメリカ政治、政治情報学） 42

相互理解を深めるための努力を 真家陽一（名古屋外国語大学中国語学科教授、中国経済、マクロ経済） 44

質疑 47

総括 川村範行（名古屋外国語大学外国語学部特任教授） 48

閉会挨拶 兪曉軍（名古屋外国語大学外国語学部中国語学科長） 49

来賓紹介 50

終わりに 交流パーティーでの声 51

学長・コメンテーター・コーディネーター プロフィール 53

## はじめに

日本と中国は二千年近い悠久の歴史を持つ、世界でもま  
れな間柄です。長い友好往来の歴史を共有する一方、近現  
代には二度にわたる悲惨な戦争の歴史を体験しました。さ  
らに、二〇一二年には日本政府による尖閣諸島（中国名・  
釣魚島）国有化の決定により、日中両国は対立状態になり  
ました。日本と中国は一九七二年九月に国交正常化を果た  
しましたが、今なお戦争の歴史認識問題と島の領有権問題  
が克服すべき課題となっています。

戦後70年を迎えた二〇一五年十月に、名古屋市内のホテ  
ルで名古屋外国語大学が中心となって国際シンポジウム  
「第一回日中大学生討論会」を実現しました。「日中関係の  
未来を共創する」をテーマに、両国の元外交官三名の講演  
と、両国の大学生八名による徹底討論を展開しました。こ  
の時の全記録は「日中関係の未来を共創する 両国元外交  
官・大学生の提言」（かもがわ出版）として出版化されま  
した。翌二〇一六年六月に中国上海市の伝統校同済大学で  
第二回日中大学生討論会として引き継がれ、「日中関係の  
現状と課題」について相互理解を深めました。そして、本  
年二〇一七年六月に愛知県日進市の名古屋外国語大学で第

三回日中大学生討論会が開催されました。両国の主要七  
大から学生代表計八名が集まり、「トランプ時代の日中関  
係 若者の視点から」をテーマに、日米中の三角関係に視  
野を広げて日中関係の在り方について率直な意見交換を  
しました。この報告書に本討論会の全記録を収めました。

中国がGDPで日本を抜いて世界第二位の経済大国と  
なり、今世紀半ばには世界トップ「強国」を目指す中で、  
日本と中国の新たな関係が問われています。この報告書に  
盛り込まれた若者の「共生」の視点が日中関係を切り開く、新  
たなヒントとなることを願っています。

川村範行（名古屋外国語大学特任教授、  
「第三回日中大学生討論会」実行委員長）

## 「日中大学生討論会」開会の挨拶

### 日中関係のあるべき姿を



亀山郁夫（名古屋外国語大学学長、  
「第三回日中大学生討論会」実行委員会顧問）

名古屋外国語大学はワールドリベラルアーツセンターと中国語学科の主催により、「第三回日中大学生討論会」を開催します。日本、中国両国の主要七大学から学生代表計八名が集まり、21世紀の日中関係の在り方について率直な意見を交換し、若者の視点から未来に向けての提言を行います。両国のこれだけ複数の大学の学生が日本で公開討論会を行うのは例がなく、極めて貴重な機会となります。

二年前の秋に、名古屋市内のホテルで名古屋外国語大学が中心となって国際シンポジウム「第一回日中大学生討論会」を実現し、日中両国の八大学の学生代表八名が「日中関係の未来を共創する〜若者の視点から〜」をテーマに討論を展開し、一致点をまとめた「日中大学生宣言」を発表

しました。同時に、両国の元外交官三名の講演会を行い、国際的な観点から日中関係についての知見を披露していただきました。

昨年五月には、海を渡って中国上海の伝統校同済大学で「第二回日中大学生討論会」が開催され、日本の四大学の学生代表四名と同済大学の学生十数名が「日中関係の現状と将来」をテーマに討論を深めました。

そして、今年再び名古屋で、三回目の日中大学生討論会を開催することができました。「自国第一主義」を掲げるトランプ新政権の発足により国際関係が激動する中で、中国の存在は大きく、日本と中国の関係は益々重要になっています。二千年の友好往来と近現代の戦争対立の歴史を有する両国がアジアの大国として並び立つ時代を迎え、どのような関係を築いていかなければならないのか。21世紀のアジアと世界の平和・安定に大きな影響を及ぼす日中関係の未来は、グローバル時代を生きる若者たちの知恵と想像力にかかっています。

この討論会を通じて両国の大学同士の相互理解と相互交流が深まり、学生たちが深いきずなを共有することが将来への糧となります。また、討論会を聴いていただく市民の皆様や学生・教職員が日中関係のあるべき姿について思いをはせ、隣国同士の国民感情の改善にいささかなりとも寄

与できることを望みます。

最後に、今回の討論会が実現しましたのは、学生を派遣してくださった東京外国語大学、愛知県立大学、愛知大学、及び中国の天津外国語大学、大連大学のご協力の賜物です。各大学の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

同時に、第一回に続いて手厚い共催のご支援をいただいた中日新聞社様、同じく第一回に続いて温かい後援の協力をいただいた東海日中関係学会様、日中文化協会様、また新たに熱心な後援をいただきました愛知華僑華人総会様、及び中華人民共和国駐名古屋総領事館様にそれぞれ深く感謝申し上げます。

## 国の交わりは民の親しさにあたる



李穎（中華人民共和国駐名古屋総領事館領事）

尊敬する亀山校長先生、ご来賓の皆様、こんにちほ。ご紹介にあずかりました、中国駐名古屋総領事館科学技術担当領事 李穎（リ・エイ）と申します。

本日は第三回日中大学生討論会にお招きいただき、誠に

うれしく思います。このイベントを開催するにあたりまして、ご尽力いただいた名古屋外国語大学の方々、及び、中日関係に関心を寄せてご来場いただいた皆様に感謝を申し上げます。現在の中日関係が回復の兆しを見せていますが、いくつかの敏感な様相が存在しています。双方は、中日の四つの政治文書と四項目の原則的共通認識を基礎にして、共に努力し、両国間の交流協力を大いに図り、中日関係がいち早く正常な軌道に戻るようすべきであります。

今年是中国中日国交正常化45周年です。四十年以来、中日間の人的往来と経済貿易交流ははなはだしい成長を遂げました。中国と日本は世界第二位、第三位の経済大国であり、重要な隣国であり、地域と世界の平和と発展に重要な影響があります。また重要な時期にもきています。中日両国関係を正しく認識するには、政治的相互信頼、経済貿易協力、文化交流、人的往来を様々な角度から分析し、理解する必要があります。本日のテーマのように、世界情勢が複雑に変化する中で、両国の枠組みを超えてグローバルな観点から中日関係のあり方についてご来場の皆様と一緒に考えたいと思っております。国の交わりは民の親しさにあたり、中日両国は近隣として人的交流をもっと展開し、相互理解を絶えず高めるべきであり、両国青年同士の交流は特に重要になります。こうした観点から見れば、本日のようなプ

ラットフォームで両国の若者が率直に意見を述べ、お互いへの理解を促進することは大きな意味があります。中日関係の未来につながると信じております。

最後に、本日の討論会にあたって、中日両国の大学生が十分な交流と意見を交換でき、大きな成果を上げるように期待しております。ご来場の皆様のご健康とご活躍を祈念しております。簡単でございますが、これをもちまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。謝謝。

第一部 両国大学生八人の徹底討論

コーディネーター

名古屋外国語大学 特任教授

川村 範行

パネリスト

大連大学 日本語文化学院

呉 婷妍

天津外国語大学 日本語学科

王 儷舒

大連大学 日本語文化学院 日本語学科

王 培璐

名古屋大学 国際言語文化研究科

張 雅

東京外国語大学 国際社会学部 国際社会学科

丁 天聖

愛知県立大学 外国語学部 中国学科

仲田 結稀

愛知大学 現代中国学部 現代中国語学科

塩井 晴貴

名古屋外国語大学 世界共生学部 世界共生学科

山本 裕佳



討論会場

## 第一章 討論会のはじめに

### 1、趣旨説明

司会・上田幸師さん（名古屋外国語大学外国語学部中国語学科4年） ただ今より、日中両国の大学生8名による討論会「トランプ時代の日中関係〜若者の視点から〜」を始めます。コーディネーターは名古屋外国語大学の川村範行特任教授です。

川村教授 皆様、こんにちは。私はこの討論会のコーディネーターを務めさせていただきます、名古屋外国語大学の川村範行といえます。私は現在、日中関係学会の副会長も務めております。一貫して日中関係の研究及び中国と日本の交流に取り組んでおります。今回は三回目の日中大学生による討論会です。

昨日は、学生たちが愛知県知事公舎を表敬訪問し、大村知事さんと親しく懇談をしてまいりました。その後、愛知県体育館にありますピンポン外交の記念ミニメントをみんなで見学してまいりました。これは、現代の日本と中国の関係及び、中国とアメリカの関係、そのいわば原点になっ



コーディネーターの川村範行氏と、丁天聖さん（右）、張雅さん（左）

たとも言えるピンポン外交。この歴史を若者たちが改めて認識するという場でした。

さて、今回の討論会のテーマは「トランプ時代の日中間係」という難しいタイトルです。これは亀山郁夫学長が設定したテーマでございます。この討論会のまず趣旨、背景を私の方からご説明したいと思います。ご承知のようにアメリカのトランプ大統領が誕生してから、アメリカの世界政策、外交、内政政策共に大きく変わってきたわけです。この変化によって国際関係にも大きな影響が出てきております。これは三点に整理できると思います。

まず第一点はTPP、このアジア太平洋経済連携協定からアメリカが脱退したということです。このアジア、太平洋における多角的経済貿易の体制に大きな影響を与えるものであります。この地域の経済貿易の枠組み、仕組みをどうしていくかということが課題となっております。

第二点は、今月の始め、地球温暖化防止に取り組みパリ協定からアメリカが離脱するという発表をいたしました。これは地球的な大きな問題であります。これに対して、直後にイタリアで開かれたG7、先進国首脳会議、この場において、アメリカ抜きで六カ国でこのパリ協定を進めていくという、そういう宣言文が出されました。また、中国もこのパリ協定を積極的に進めていくことを公表いたしました。

して、EU、ヨーロッパの諸国と一緒に手を組んでやっていくという発表をしております。つまり、アメリカ抜きでこの地球温暖化防止に取り組んでいくという、こういう大きな変化が出てきたわけです。

それから、第三点は、トランプ大統領が就任して以後、突然シリア攻撃をいたしました。また、アフガニスタンに対しては核兵器を除く、世界最強最大の破壊兵器と言われる最新兵器をIS（イスラム国）攻撃という名目で使ったわけです。また、北朝鮮に対しても武力行使も辞さないという強硬な姿勢を見せております。これによって、東アジアの情勢にも大きな影響が出てきているわけです。以上、三点の変化というもの。これが中国及び日本に対してはどのように影響してくるかということでございます。

まず中国に対しては二点あります。この二点というのは、四月にアメリカで習近平国家主席とトランプ大統領の初めての米中首脳会談が行われました。この場において重要な内容は、北朝鮮の核開発を防ぐために中国が役割を果たすべきであるという、そういう要求をトランプ大統領がしたわけです。これに対して中国も何らかに応じていかなきやいけない。それから、もう一つはアメリカにとって中国との間の貿易赤字、これを減らすための「百日計画」。百日で何らかの改善策を出さない、あるいは出しますという、

こういう取り決めが行われました。この二点です。

それから、日本とアメリカの関係において、これも二点ございます。安倍晋三首相は早々と二月にアメリカを訪問し、トランプ大統領と初めて首脳会談を行いました。この会談の内容というのは、一つは日米の安全保障体制をさらに強化し、緊密にしていくということです。それからもう一点は、日本とアメリカの経済貿易関係。これは二国間交渉で進めていく。こういうことをアメリカが要求し、また日本もこれを受け入れたんです。

では、これからの日中関係にはどう影響してくるかということを、この討論会でも話し合うことができたらと考えております。

そこです、今日のこの討論会に出場してくれた学生たち、一人ひとり、それぞれ自己紹介してもらいたいと思います。どういう学生が今回出ているかということをごさるんにも知っていただきたいと思ひます。

## 2、自己紹介

呉婷妍さん 皆様、こんにちは。大連大学日本語文化学院の呉婷妍（ゴ・テイケン）と申します。この度、貴国か

らのご紹介をいただきまして、日中大学生討論会に参加できることは身に余る光栄です。私は中国浙江省の出身で、大連大学で三年間日本語を勉強してきました。去年の三月から名古屋外国語大学へ一年間留学したことがあります。小さい頃から日本のアニメに非常に興味がありましたから、日本の文化、そして、日本という国にも興味を持つようになりました。そして、大学の入学試験の後、第一志望で日本語学科に入りました。三年間の日本語の勉強を通じて、自分が中日の架け橋になれるということをはっきりと認識できました。これからも日本語を勉強しながら、中日の相互理解に貢献したいと思ひます。最後に、大連大学の教職員と学生を代表して、中日両国の友好関係がますます深まるように、そして、今回の日中大学生討論会のご成功を祈念いたします。

王儷舒さん 皆様、こんにちは。私は天津外国語大学日本語学科二年生の王儷舒（オウ・レイジヨ）です。私は海南の出身で、今年の九月名古屋に留学する予定となりました。小さい頃から日本のアニメ、ドラマとバラエティー番組を見ることを通じて、日本語と接触することができました。そして、見ているうちに、耳が徐々に日本語に馴染むようになり、日本語能力もますます高くなり、日本語と日本文化が好きという気持ちもますます強くなりました。で



(左から) 吳婷妍さん、王儷舒さん、王培璐さん

すので、日本語を専攻することを決めました。大学にいる二年間、日本人留学生と交流する中で、彼らの多くは中国に来た後、中国人に対する印象が中国人と交流することを通してますます良くなってきたと分かりました。私は、他国の人と直接接触することで、そうではないということに気づき、そこから交流そのものが始まるということに気づきました。もしこの討論会で皆さんが私の意見を聞いて、中国人に対する印象が少しでも良い方向に変えることができればと思います。

王培璐さん 皆様、こんにちは。大連大学日本語文化学院日本語学科二年生の王培璐（オウ・バイロ）と申します。今年の三月から名古屋外国語大学へ一年間の留学に來ています。出身は河南省鄭州です。私は昔からずっとニュースを見るのが好きです。特に国際関係についてのニュースに関心を持っています。将来、中国と日本の政治に係る仕事がしたいと思います。今回、「第三回日中大学生討論会」に参加できるのは非常に光栄だと思ひます。この討論会を通じて日中関係についての自分の意見を出したいと思ひます。

張雅さん 皆さん、こんにちは。名古屋大学国際言語文化研究科に所属しております。私は中国の海南島から参りました。中国の東北師範大学で四年間日本語を勉強してきた



(左から) 仲田結稀さん、塩井晴貴さん、山本裕佳さん

後に、日本の大学院に留学しました。日本に来てもう三年経ちました。最近、アンケートで名古屋は最も魅力に欠ける都市に選ばれましたが、私は日本に来てずっと名古屋で暮らしていて、ここでいろんな人から助けと支えをいただきましたので、ここでいろんな経験を積み重ねて成長していきます。私は名古屋の独特な食文化や、この暮らしやすさにすっかり慣れてきましたので、私は名古屋に対してすごく愛情が深いです。今日は極めてハードな話題ですけれども、皆さんと一緒に意見を交換したり話し合ったり、等身大の交流ができればいいなと考えております。

**川村教授** 偶然ですけども、今の張さんと、それから左から二番目の王儷舒さんは、中国の一番南の方にある海南島という島の出身です。

**丁天聖さん** 東京外国語大学国際社会学部国際社会学科四年の丁天聖（テイ・テンセイ）です。私の両親は共に上海出身で、最初は父の仕事の関係で東京に私は六歳から住んでいて、小中高と日本の教育を受けてきました。なので、今日は日本サイドということこちらに座らせていただいております。大学では主に中国の内政や中台関係について勉強しています。将来は大学院に進んで中国の内政と対外政策及び対台湾政策というテーマで研究していきたいと思っております。もちろん、日本をいわば第二の故郷とし

て持つ自分としては、日中関係にも非常に興味があります。本日の討論会では皆で心の内を明かせることができるような、熱い議論ができるような討論会に出来たら幸いです。

仲田結稀さん 愛知県立大学外国語学部中国学科の三年生の仲田結稀です。私の個人的な中国との関わりは、小学生の頃に父が出張で上海によく行っていて、上海に旅行に行ったのが最初で、二年間上海に住んでいたのと、あと、数回旅行に行ったり、今年の九月から一年間留学に行く予定があります。このような日中の学生同士で討論・意見交換ができる機会がありませんので、今日はとても楽しみにしていました。学生同士同じような価値観でお互いの国を見られるかなと思うので、お互いの国についてさらに理解を深めて、日中関係に少しでもいい影響を与えられたらいいなと思います。

塩井晴貴さん 皆さん、こんにちは。私は愛知大学現代中国語部現代中国語学科四年の塩井晴貴と申します。私が中国語を始めたきっかけについてなんですけれども、私は大入学入前に島の問題（尖閣諸島国有化）が発生したことを受けて、連日のメディアの中国に関する過度な報道について疑問を持ちました。そこで、百聞は一見にしかずということで、実際に現地へ向かって、自分の肌で中国というものを体験したく、中国語の学習を始めました。大学ではダ

ブルデイグリーという制度に参加しまして、中国の南開大学に二年間留学しまして、今年の六月末に卒業いたします。このような留学中の経験を活かして、本日は若者の視点から今後の日中関係について議論していきたいと思っております。

山本裕佳さん 皆さん、こんにちは。名古屋外国語大学世界共生学部世界共生学科一年生の山本裕佳です。私の父は日本人で、母は中国人なんですけれども、母が実家へ帰る際によく一緒に中国へ行ったりしました。小学校三年生の頃、中国の黒竜江省ジャムス市というところに三カ月間留学した経験もあります。私は小さい頃から、なぜ隣国である日本と中国が長年良好な関係を保てないのかというのをずっと疑問に思っていました。討論会までの過程で、二年以上の授業と大学院の授業を聴講生として受けさせていただいた中で、自分の知識の少なさを知るとともに、多くの日中関係の現代史を学ぶことができました。そして、この日中討論会に参加することができて、本当にとても光栄に思っています。この討論会で私は両方の血を持つ者として客観的に意見を述べるのができたらなと思っております。

## 第二章 トランプ政権誕生と日中両国へ

### の影響

#### 1、トランプ政権の影響をどう見る

日中は安全保障のジレンマに

川村教授 最後に登場した山本裕佳さんはこの四月に名古屋外国語大学に誕生したばかりの世界共生学部世界共生学科の一期生です。そこで、討論に入ります。まず前半の約一時間、これは第一のテーマと第二のテーマについて討論したいと思います。

第一は私が冒頭に申し上げましたけれども、トランプ政権が誕生して国際社会にいろんな影響が出てきている。その中で若者から見て中国に対する影響はどうか。それから、日本に対する影響はどうか。そして、またそれが日本と中国の関係にどのように影響してくるのか。そして、それぞれのように、このトランプ政権の政策、変化に対応していったらいいかということ若者の視点で率直に考えていることを出し合いたいと思います。

丁天聖さん トランプ政権についての考え方ですが、トランプはアメリカ第一主義の下、経済界における損得勘定を判断する際の物差しにして、米国の利益獲得を政策の最大の目的としているんだと思います。オバマ前大統領によるアジア回帰とは異なった形での価値観外交に基づかないアジア重視は、平和とか安定を求めているというよりは、アメリカの経済的な利益だけを求めるものとなっていると考えております。だから、日米中の間のいろんな問題を元手にし、取引を迫ってくる可能性が出てくるという影響を日中関係には及ぼしていると思います。それによって日中が軍拡競争を進め、いわゆる安全保障のジレンマに陥ることは、トランプ政権にとっては逆に利益となり得るのかなと思います。

それと、トランプ政権は多国間外交ではなく、二国間の外交を進める傾向にあると思います。そのため、米国を介して日中関係改善が見込めるというのはやはりないかと思っていて、それによって対話が減ることで日中友好というよりは、対立へと向かってしまいます。北朝鮮問題なども六

カ国協議といった多国間協議が問題解決の道であると思っ  
ているので、やはり日本、中国にとどまらず、東アジアは  
多国間外交が必要なのではないかと思っております。

### 日中関係は緩和に

王培璐さん トランプ大統領は当選後、初のアメリカ議会  
での演説において、アメリカ第一の方針を掲げました。こ  
れは第一にアメリカのことを優先して考え、世界や他の国、  
地区のことを後回しにする考えです。新しいアメリカ孤立  
主義と呼ぶ学者もいます。まず、日米関係では、トランプ  
大統領は就任後間もなく安倍首相が訪米し、トランプ大統  
領と首脳会談を行い、日米同盟を強固にする意向を確認し  
ました。経済面では、両国経済のウインウイン、すなわち  
お互いに利益があることを目指していますが、アメリカの  
TPP 脱退は日本にとって小さくない打撃です。軍事面  
では、日本は在日米軍に頼り、東アジアの安全と平和を維  
持し、日米同盟によって中国を牽制してきました。アメリ  
カが将来在日米軍を撤退させるなら、疑いもなく、日本政  
府の願わないうところですが、トランプ政権がアメリカ第一  
主義をさらに強めるなら、日本は対米政策を練り直さざるを  
えないかもしれません。

次は、中国とアメリカの関係は、どうでしょうか。習近

平国家主席は今年の四月にアメリカを公式訪問し、トラン  
プ大統領と会談しました。両国間には台湾問題、南シナ海  
問題などについて意見の食い違いがありますが、首脳会談  
によって両国の未来関係はようやくはつきりしてきました。  
貿易方面では、トランプ大統領が中国を為替操作国に  
入れると提案した以前のようなことはありません。しかし、  
将来において、中米両国の摩擦が発生するなら、貿易戦争  
が不可避的かもしれません。両国は共益を堅持し、貿易戦  
争を避けることができるかどうか、両国の将来の関係を見  
ていく必要があります。

そして、ここで特に強調する必要があるのは、朝鮮半島  
問題について米中両国の考え方が一致したことです。両国  
とも朝鮮半島の非核化を堅持する立場であり、中国は地域  
の平和を希望し、アメリカも中国を通じて北朝鮮の牽制を  
希望しています。この点で両国は共通利益を持っています。  
実質的な協力を得ることができそうです。

ところで、トランプ政権の誕生によって、日中関係は短  
期間で特に悪くなるわけではなく、緩和に向かいます。今  
日の国際関係の変化は国家利益に基づいています。当面の  
朝鮮半島の情勢は急速に悪化しています。アメリカが強固  
な態度を示して以降、北朝鮮はミサイル発射実験を繰り返  
しています。北東アジアの安全にとって嚴重な脅威を創り

出しています。朝鮮半島問題について中国と日本は共通利益を持っていきます。協力を進めることができます。日中両国は一衣帯水であり、古来からとても近い隣人同士の考えであり、文化的にも似ています。多くの共通利益があることから言えば、日中両国が共に偏見を捨てて協力すれば、トランプ政権誕生を契機として、コミュニケーションと理解を強化し、争いを棚上げにして共通利益の発掘を続け、日中関係は必ず好転することができます。鍵は両国政府の態度です。

**川村教授** 丁君が述べた意見と王君が今述べた意見、共通する点もあれば違うところもあるわけですね。他の人の意見も聞いてみましょう。

**仲田結稀さん** 私の意見は、まずトランプ政権が掲げている米国内第一主義があることで、アメリカはまず国内の産業のことをよく考えた政策としてTPPへの不参加があつて、アメリカが参加をしないと今のところTPPはほぼなくなってしまう。TPP削減を意味すると思う。これは日本にとっては経済的に中国に対して対中包囲が不可能になって、今中国は勢いが増しているのです、その中国経済が、言い方はちよつと悪いですけど、暴走しないかなというのが私個人の心配なところなんです。中国に対してもアメリカの関税が多分上がると思うので、そしたら、中国がア

メリカに対して反感がわくかなと思うんですけど。一方でTPPの消滅があるので、その点では中国にとってはそれは貿易面ではメリットがあるのではないかなと思います。このようにアメリカの政策がガラッと変わったことによつて、日本も中国も今までと異なる政策を考えていかなきゃいけないだろうなというのがあるんですけど。それ自体が日中関係にすごく大きな影響を与えるとは考えていなくて、私は。でも、いい影響もないだろうなというふうに私は思っています。

「一帯一路」やパリ協定で日中協力を

**王儷舒さん** トランプ新政権は中日関係に様々な影響を与えると思います。まずは経済において、アメリカのTPP離脱や中日両国を含めて様々な国家の関税を上げようとする行為は両国の経済での連携を導くと考えられます。また、政治において、トランプに関して中国との首脳会談を維持し、これは間接的に中日両国の政治対話を促進すると考えます。その他、トランプは依然として北朝鮮を敵視する政策を貫き、東アジアの情勢に影響を与えるでしょう。なので、地域安全のために東アジアの大国として中日両国は政治での協力を増やす可能性が高くなるのではないかなと思います。つまり、両国は一帯一路（21世紀シル

クロード構想)やFTAAPでの経済的協力を深め、トランプの保護貿易主義がもたらす影響を減少すべきだと私は考えています。また、政治での対話を深めて、トランプ新政権が東アジアにもたらず脅威に共に立ち向かって、東アジアの安全及び平和発展を図るために協力し合うべきだと考えております。

**川村教授** 今の王儷舒さんは、日中が協力していける、そういう余地があるという意見ですね。その中で出てきた「一帯一路」という言葉は、一つの「帯」、それから一つの道路の「路」これで一帯一路と書いて、ワシントン・ワシントンと言って、これは21世紀のシルクロード構想というふうに表示することもできます。これは中国の習近平国家主席が二〇一三年に提唱した広域経済圏構想であります。つまり、古代においてシルクロードという交易の道があったわけですね。これを21世紀に新たに整備していく。これは陸のルート、それから海のルート。この二本のルートを新たに整備していくという考え方です。この沿線の国々は大体64カ国あります。この64カ国と共にインフラ整備、つまり、鉄道、高速道路、飛行場、それからエネルギーのパイプライン、それから海上のルート、港、港湾の整備、こういういったものを総合的に進めていこうという考え方でありまして、中国が中心となって進めているわけですけども、日本が

どのようにここに関与していくかという、これがこれからの焦点の一つになるんです。今のは補足コメントです。

**塩井春貴さん** 私は米国のパリ協定離脱に対して、中国が国際社会へパリ協定推進をアピールしたことによって、中国が今まで以上に環境対策に力を入れることになると思います、日本の環境技術力というのが役に立つと思いますので、アメリカへの日本の技術の売り込みから中国への売り込みにシフトしていけるのではないかと考えています。また、トランプ政権がアメリカ第一主義を掲げるのに対して、中国はアジア、中東、ヨーロッパ、アフリカとの関係を経済を通じて強めていると思います。なので、国際社会での中国の存在感が高まっていると思います。そこで、日本が中国と協力して東アジアを発展させていく余地があるのではないかと考えています。また、日本はトランプ政権と付き合いつつ、中国、東アジアとも上手に付き合ううえで、二枚舌、三枚舌の外交戦略というのにも必要になってくるのではないかと考えています。

**呉婷妍さん** 私はさつき丁さんと塩井さんが話したパリ協定からアメリカが脱退したことについて少し話したいです。やはり日本とアメリカは既に先進国です。でも、中国は経済的にはもう既に発展してきましたが、まだ発展途上国と言われますから、やはり今も日本とアメリカの昔のよ

うに、環境、いわゆる自然を犠牲にして発展しています。私たち中国の国民たちも、この春のときにやはり黄砂が中国から日本に飛んできたということもニュースで聞いたことがあります。大変申し訳ないですが、すみません。今、中国の政府もすごく努力をして対策を考えていますけど、やはり日本みたいな、ある意味で汚染や環境問題の先輩として、私たち中国も勉強したいことがたくさんありますから、この点においても両国の協力が必要だと思えます。

**川村教授** 塩井君と同じく、パリ協定、及び環境問題について日中が協力していけるという、こういう観点ですね。

**山本裕佳さん** 私はトランプ政権の掲げる米国第一主義という政策は、オバマ前大統領の推進していたグローバル化とは逆転するものだと考えています。それによって、自国第一主義の傾向がアメリカ国内だけでなく、他国でも見られるようになったと思っています。しかし、トランプ大統領は、選挙時に当初アメリカ第一主義を唱えていて、そして、中国に対して険悪な態度を見せていました。しかし、大統領になってから、シリア攻撃をしたり、また、中国の習近平氏と会談をして友好的な態度を見せており、北朝鮮のミサイル抑止へと共に協力する姿勢を見せ始めています。トランプ大統領の言動においては、初めとの一貫性がなく、日本、中国だけでなく、他の国でも混乱を見せてい

ます。私は、日中が太平洋の大国として、そして、アメリカも世界の諸問題の解決へと協力して引っ張っていくべきだと考えています。

また、先ほどパリ協定のこともありましたが、アメリカのパリ協定やTPPからの脱退によって、中国が世界の代表となつて他国と協力しようする姿勢を見せ始めています。日本も今までのアメリカに従う姿勢を崩して、世界と協力しようとしています。日本は中国より早く発展を始め、環境汚染問題なども経験した国であるので、中国が今発展している時に何か協力を進めていくべきではないかなと思います。

## 2、日中は対立か協力か

**川村教授** これで全員がそれぞれ意見を述べたわけですけども。その中で、トランプ政権誕生による国際社会への影響という面で、日中両国が協力している余地があるという、こういう意見と、もう一つは日中関係の改善は望めない、あるいは日中関係には大きな影響がないという、こういう考え方が出ているわけです。この辺についてもう少し議論を深めていききたいと思います。

日中は安全保障のジレンマに

丁天聖さん アメリカが米国第一主義で東アジアから離れるということは、アメリカとしては米軍を駐在させるのは直接利益がなくなるわけではないんですけど。それよりも日本とかEUとか、こないだあった西大西洋条約の会議でも出たんですけど、やはり自国に軍事費をもう少しそれぞれの国が出した方がいいんじゃないかなという考えなので。そうすると、じゃあ、日本はやはり軍拡しますよね。それによつて中国は、日本が軍拡したことで、「軍国主義だ」と批判するようになるので、それで安全保障のジレンマに陥るということを先ほど言いました。やはり日中関係においてはますます対立が深まっていくんではないかなという考えです。

呉婷妍さん 中国では仲良くすればウィンウィンだが、対立すれば共倒れになるという言葉があります。アメリカがアジアから離れたいという姿勢が感じ取れますが、やはり中国がアジアにおいて存在感が高まっているということが示すと思います。こうした状況の下で、同じ影響力を持つ日本と中国の関係を改善するのがいい選択だと思います。アメリカが太平洋地域から離れるといつても、やはりその地域の利益を注視しています。だから、中国と日本が協力すれば、アメリカも態度とかいろんなやり方を変えるかな

と思います。

川村教授 先ほどの丁君は安全保障の面から日本が軍事を拡張していくと、中国もお互いに軍事を増やしていくという、こういう考え方（安全保障のジレンマ）を述べたわけですけども、呉さんは日本と中国の関係を改善することによつて、アジアにおいて協力していくという点を強調したわけですね。

仲田結稀さん 丁さんが言った、軍備を拡張して安全保障のジレンマの話の中で、私も同じようなことを思うんですけど。例えば、軍備を拡張して、そうなると日中間の関係が悪い要因としてよく挙げられる、領土問題、海洋資源をめぐる紛争みたいなものが高まるので、対立がその点ではやはり深まってしまふ。あと、環境保護に関しては日中で協力できるものがあるのかなと思います。

日中韓の自由貿易協定促進へ

張雅さん 私はやはり軍事力の拡大というハードパワーよりも、日本、中国、韓国、あとアメリカと一緒に経済を一体化することによつてアジア太平洋地域の摩擦と紛争をコントロールすることができると考えています。アメリカがTPPを離脱することは逆に日本と中国、韓国の3カ国の自由貿易協定を早く締結することを促進する力になると

考えています。

**川村教授** アメリカがTPPから離脱したことが日中韓の経済の貿易の連携を深めていく。そういう一つのきっかけになるといって考え方ですね。中国が中心となっている一帯一路という広域経済圏構想について、これが日本と中国との協力の場になるといのが天津外国語大学の王儷舒さんの意見でしたけれども、さらに付け加えることがあれば意見を出力してください。

**王儷舒さん** 今年五月に北京で行われていた一帯一路国際協力サミットで、日本の自民党の二階俊博幹事長さんはインタビューでこう言いました。一帯一路のサミットを通じて、構想の透明度の高さと、中国の一帯一路の建設に対しての真剣さがその会議で見られますので、今後、日本も一帯一路の参加に、一日も早く参加したいということを述べました。そして、一帯一路に参加することを含めて、アジアインフラ投資銀行にも参加したいと考えておりますという話なんですけれども。アジアインフラ投資銀行は、今、日米が主導する、アジア開発銀行がまかないきれない、増大するアジアにおけるインフラストラクチャー、整備の必要とする資金ニーズに応えるという機能を果たしています。ですので、もしトランプ新政権の下では日本側も中国の一帯一路構想と中国が主導しているアジアインフラ投資

銀行に参加すれば、中日関係がもっと仲良くなるんじゃないかと思えます。

**川村教授** 五月半ばに北京で一帯一路に関する国際協力フォーラムという初めての会議が開かれました。ここに世界の29カ国から首脳が参加して、130カ国とそれから70以上の国際機関から合わせて1500人が参加して行われました。この共同コミュニケが発表されて、あらゆる形の保護主義に反対するという文言が組み込まれました。つまり、中国が中心となって推し進めようとする一帯一路という広域経済圏構想において、結局アメリカのトランプ政権が今、進もうとしている自国第一主義、これに全く対照的な方向へ進んでいく、という宣言をしたわけです。

北京の国際フォーラムに日本からは自民党の有力者である二階幹事長が安倍首相の側近を連れて出席をしたわけです。そして、習近平国家主席と会見をしました。この時に安倍首相の親書を渡したわけです。この親書の内容は日中関係の改善を図るということを中心しているわけです。このフォーラムの後、安倍首相は中国が進める一帯一路に対してもかなり積極的な発言をするようになってきています。こういうところにもトランプ政権の自国第一主義、あるいは孤立主義というものが逆に日本の対中姿勢、外交にも微妙な影響をしているのではないかと、と見ることもできます。

す。

### 3、相手国のイメージ

川村教授 次のテーマに移りたいと思います。では、こういう新たな国際情勢の変化の中で、今度は日本と中国の關係に絞って見ていきたいと思えます。日本と中国の關係。これは、大きく言って三つの課題があります。第一は島の領有権をめぐる問題。これは二〇一二年九月に日本政府がこの島を国有化したことによって問題が大きくなった。日本と中国が政府レベルで対立するということになったわけです。その後、国家レベル、外交レベルではこの關係を改善していこうという取り組みが進んでいます。第二は、歴史の問題です。先の日中戦争についてどのように評価するかということ。これは旧日本軍による侵略戦争であったという受け止め方と、日本の一部の政治家の間では侵略戦争を否定するという発言が時々出てきています。また、これに關係して、靖国神社へ日本の首相が参拝をする。これに対して中国政府、あるいは韓国政府が反対を表明するという、いわゆる歴史問題、歴史認識問題。それから、第三は国民感情の変化という課題があります。お互い中国に

対して好感度、親しみを感じるという度合いが、世論調査、数字のうえで非常に薄れてきている。また、中国の人たちの日本に対する意識はどうかというと、民間機関が行っている世論調査を見ますと、日本ほどひどくはないですが、やはり日本に対する感情というものが以前と比べたらやはり変化してきている。

このような三つの課題を抱えている日中關係ですが、では学生諸君から見て相手の国、あるいは相手の国民に対してどのようなイメージを持っているか。あるいはどう捉えているか。そして、また、このイメージというものが例えば留学してどのように変わったか。あるいは、旅行をしてどのように変わったかということ。そんなことを含めて率直に相手の国、国民をどう捉えているか、というところから考えていきたいと思えます。

#### 日本に行く夢を実現

呉婷妍さん 日本に対して、自分なりの理由で昔から好感を抱いています。さつき川村先生が話した世論調査ということについて、私の考えではやはり、中国の若者と私の親の世代とか、考え方は全然違います。最近ではインターネットがすごく発展して、中国の若者が日本のアニメとかドラマとか番組なども簡単に見られますから。日本に対して親

しいという感情を持っています。私が小さい頃からずっと日本のアニメとかを見ていましたから、夢とも言えます。日本に行きたいという気持ちですが、高校の時、すごく強いです。去年三月にやっと日本に来ました。その時の気持ちは、意外にすぐ日本の生活に慣れました。中国人なのに、ちょっと不思議な感じがします。ですから、もし自分の親も、おじいさんもおばあちゃんも日本に来て、街を歩きながら店の看板を見たら、中国の漢字と同じ字が書いてあるところを見たら、多分両国の関係とかいろいろな考えとかも変わるかなと思います。

そして、実は私は自分の志望で日本語学科に入りましたが、学科を選ぶ時に親からすごく反対されました。ちょっと言いにくいですけど、裏切り者みたいな感じで言われましたから。しかし、今、私は日本に留学したことがありますから、いつも自分の家族に日本のことをしゃべっていますから、やはり今は日本に対して、お金があれば彼たちも日本に来たい、と。

「嵐」が好き、羽生結弦君が好き

王儷舒さん 一九八〇年代に入ってから、日本の対中ODAがスタートしたことはもう皆さんご存じだと思いますが。その時は中日の間の関係は外交というか、最も友

好である様を呈したということ皆さんも知っていると思います。その時に天津市と日本の神戸市の友好都市提携を結ぶことができました。でも、一九九〇年代、及び21世紀に入って以来は、中日関係はやはり台湾問題と領土問題、こういった問題が両国の関係を冷めつつあるという部分もありますので、それでも私はちょっと国民感情において、そういう政治に影響される部分も当然ありますけれども、でも、私の身の回りで感じたことは、そんなに影響されていないというような感じがします。

まずは皆さんに聞きたい問題がありますが、今日は何の日なのか皆さんご存じでしょうか。今日は日本の国民アイドル、嵐の二宮君の誕生日です。今の私はここで討論会に参加していて、二宮君の誕生日を祝うことができませんが、でも、去年は私の学校の天津外大の嵐が好きな人と一緒に、相葉君の誕生日を祝うことができました。皆さんと一緒に、お金を払ってケーキを買って、ケーキを食べながら。緑色のケーキですよ。嵐の相葉君の色です。皆さんと一緒に嵐の話をしながらケーキを食べて、すごく楽しい時間を過ごしました。このような私のように嵐が好きな中国人は、皆さんが想像できないほど中国に多くいます。そして、「嵐にしやがれ」というバラエティー番組は、再生数は中国のネットでは平均的に言うところと15万を超えています。もし三時

間スペシャルだったから、33万を超えている場合もあります。そして、嵐だけではなく、様々な分野で活躍している日本人あるいは日本の他の芸能人さんを好きな中国人も本当にたくさんいます。私の身の回りですと、私は日本人のフィギュアスケートの羽生結弦君が好きな後輩もいれば、タレントさんのマッコさんが好きな先輩もいます。本当です。そして、実は国同士ではあまり関係がよいように見えないかもしれませんが、でも、このような中日関係におけるつながりは本当に様々あります。そして、そういう日本の方は、私たちのような中国人に夢を与えていると思います。

私は本当に小さい頃から日本語が好きで、日本に憧れを持っていてから、日本語を専攻することを自分で決めて、そして、留学試験も頑張つてようやく公費留学という資格を取りました。今年九月、愛知淑徳大学に留学する予定となっています。そして、私の後輩も羽生結弦選手と一緒に会うために今留学試験を頑張つていて、日本語を必死に勉強しています。ですから、普段生活に関わっている皆さんがあまり知られていない、こういうような人は、両国、日本の方が私たちのような中国人、特に日本語学習者で両国の架け橋になりつつある人の成長に、いろんなプラスになつていると思います。ですから、両国の関係がテレビで報道されているように悪く見えても、実は生活の中に民間



討論を聴く参加者

交流における交流は、交流を妨げないと思います。

### 進んでいる電子決済、中国人のマナーが問題

塩井春貴さん 僕は中国留学中に生活していて感じたことで、中国のチュウフウバオとかウェイシーチュウフウとかっていう電子決済システムの普及というのが、日本よりもずっと進んでいるなと思ひまして。また、その普及を発端としたクーポンサイトとか、ネット通販のプラットフォーム、デリバリーサービス、チケット予約サービスとか、レンタサイクルの配車サービスなどなど、新興サービス産業というのが著しい発展を遂げているなというふうに留学中感じました。また、中国留学や中国のインターネットを通じて中国人の社交的な性格というのがすごく共通できる点だと思っています。

逆に、悪いイメージとしては、格差問題だったり偽物文化だったり、中国人の人たちがゴミを片付けないとか、カートを置きっぱなしだとか。昔の日本もそうだったらしいんですけども。飛行機の空席に勝手に移動して横になって寝るだとか。ピアノ、家具屋さんで寝るとか、そういうマナーの問題というのはまだまだこれからのかなというふうに感じます。今日のパネリストの方に聞きたいことがあって。中国の抗日ドラマというのはどういう人たちが見

ているのかなというのと、そういうドラマについてどう思うか。共産党に入党するとどんなメリットがあるのか、聞いてみたいのですが。

### 抗日ドラマの内容は？

王儼舒さん 私は抗日ドラマなんかは、いい作品もあると思いますが、やはり90%は嘘だと思います。どんな人が見ているかは私も分かりません。身の回りの友だちはみんな全部見ていません。みんなアイドルとか、日本のドラマ、韓国のドラマに興味を持っていますけど、やはりそれもちよつと言いくいですが、申し訳ございません。

### 中国の台頭に不安感、評価すべき中国のIT

丁天聖さん これから話すのは、中国科にいて留学も経験したことがあるという友だちの話も踏まえているんですけど。日本から中国に対してはいわゆる中国脅威論とか中国崩壊論に代表されるような、どちらにしても中国の台頭、大国化に対して不安を感じる要素が大きい、マイナスの印象イメージを持つ人が一般的には多いと思います。中国は依然として社会主義とか共産主義国だと捉えている人がやはり多いので。実際はもう資本主義経済を取り入れているのに、やはり社会主義な面が強いという印象を思っている

人が多い。

評価できる点についてはやっぱり長い歴史があるとか、中華料理がおいしいとか、あとバンダとかもあるんですけど。そういった現代中国の政治とか経済や社会の状況とかにあまり関係のないものしか世間一般的には拳がらないと思うんです。しかし、私も旅行によく行くんですけど、中国で留学生生活をしている友だちとかに聞くと、中国ではやっぱりITとかを始めとして、技術力の向上など評価すべき点は本来見つけようと思えばあるんですけど、評価されにくい傾向にあると思います。

例えば、最近、皆さんLINEを使っていると思うんですけど、LINEで緑くじというのがありましたよね。それで、LINE Payを宣伝するためにあったと思うんですけど、LINE Payが日本でようやく最近出てきて、まだ定着していないと思うんです。コンビニでもやっぱり使えるコンビニが限られていて。確か私の経験だとローソンでしか使えない。セブンイレブんだと、「LINE Pay? 何それ?」みたいな顔をされるんです。しかし、中国のITのApple Payとかウィチャットペイがあるんですけど、それを逆に今、日本のコンビニでも全部使えるんです。それはITとかの面でやはり評価しないといけないのかなというのを感じます。だから、実際に

行ってみて体験してみないと等身大の相手国というのは、本当にどういう姿なのか分からないと思います。

**川村教授** 一般の日本人が抱いている中国への不安感とか、大国化に対する気持ちというか、それを丁君が説明してくれたわけですけども。この点については中国の皆さんはどう考えているんですか。

日本でもモバイル決済を可能に

**王儷舒さん** 私は今年九月、愛知淑徳大学に留学する予定なんですけど、でも、最も心配することはゴミ分別の他、一番心配することはアリペイやウィチャットでモバイル決済という機能が使用できないということなのです。でも、私は今ホテルに住んでいて、自動販売機で飲み物を買うときは、LINEでモバイル決済もできることが分かりましたけど、でも、今、LINEのアカウントを持っていませんので、やはり中国人としては日本に来るなら現金を使うことは、中国ではあまり現金を使っていないから、いつもモバイル決済で使っているんですけど。ですから、日本でもし使えなかったらちよっと困ります。

先ほどの一帯一路の話題に戻ります。もし日本が積極的に中国の一帯一路構想に、そういう枠組みに入ることがで

きたら、両国の経済的な協力ももっとこれよりもっと深めることができたなら、日本でも中国のアリペイやウイチャットのモバイル決済が使うことができれば、私たち日本にいる留学生としても大変便利なことだと思えます。そして、これは間接的に両国の人の往来と観光客の往来及び、留学生の往来、そして、経済の発展につながると思えます。

#### メイドインジャパンを買う

張雅さん 私は日本に来て三年経ちましたので、残念ながら私は中国のアリペイを持っていないので、帰ったら逆に私にとってはとても不便になっています。でも、日本に来て、私は日本の便利さは他のいろんなところにあると思っています。例えば、コンビニは二十四時間営業していて、いざというときに薬とか生活用品を買うこともできますし、エレベーターに乗るときに横のスペースを空けて急いでいる人に譲ってあげるところは、私はすごく感心しているところですよ。

日本のイメージについて、私は今電気屋さんでバイトをされていて、中国からいろんな観光客が日本の電気を買いに來ます。彼らたちは私に話して、「基本はメイドインジャパンしか買わない」と言いました。日本に対して彼たちも好印象を持っていますので、今の観光客は彼らが価値を判

断するときには歴史を基準として判断していなくて、ものの質として判断しているのです。私も多くの日本人が中国に観光していて、お互いの日常生活を見て、草の根から交流していただけだと考えています。

もう一点は、さっきの抗日ドラマに関しては、私の両親はよく抗日ドラマを見ています。私が中国に帰ったときにも見たこともありすけれども、日本語が耳に飛び込んでいますので、私は聴力の練習として両親と一緒に見ていすけれども、今はよく両親に言います。今の日本人は昔の軍国主義者と全然違って、ドラマはドラマですけれども、もう戦後70年も経ちましたので、実際日本に来て優しい日本人の姿を自分の目で確かめた方がいいと私も考えていますので、両親は「東京オリンピックの時に日本に來たい」と言いました。

川村教授 では、お母さんが中国人でお父さんが日本人であるという、山本さんからお互いの国のイメージについて語ってください。

#### 大連でタクシー代まで払ってくれた中国人

山本裕佳さん 私は本当に初めて中国に行ったのが、お母さんのお腹にいる時だったので。小さい頃から中国と日本の両方に行っているのです、特に留学してから印象が変わっ

たとか、そういうものはないんですけれども。私の周りの友だちにはやっぱり中国に行ったことがない人が多くて、その人たちから見た中国の印象っていうのはマイナス面なことばかり。例えば、空気が悪いとか、マナーが悪いとか、汚いとかそういう面です。私は中国に留学に行った時に、中国人の方から聞いた日本の印象というのは、ほとんど歴史問題に関することばかりで、日本人そのものの印象はむしろ良い方。例えば礼儀が正しいとか、先ほども言っていましたけど、文化面に対しては本当に中国人の方は日本の文化に興味を持っていらっしやる。

私からすれば、日本と中国というその枠組でプラス、マイナスというのではないと思っていて。どの国にもいいところ、悪いところはあると思います。例えば、空気が汚いとか、そういうのは昔日本が発展していた当時でも空気が汚いということはありませんし、あと、私は東京の八王子市出身なんですけれども、東京の都心の方に行けば、やはり排気ガスで空気が汚れているというのも、八王子は結構田舎寄りなので感じますし。マナーが悪いというのも、私は中央線とかでよく見るのが、電車の車内でお酒を持っていすに寝転がる。で、他の人が座れないという状況もよくあります。なので、それは日本人だから礼儀が正しいとか、中国

人だからマナーが悪いとかじゃなくて、両国やっぱりいい人も悪い人もいるし、マナーが悪い人も悪くない人もいると思っています。

あと、私は大学の留学経験者からの声というパンフレットに書いてある内容とかをよく見るんですけれども、中国に留学に行かれた方の経験からすると、やっぱり行く前はマイナス面で不安とかあったりするんですけれども、行った後の声を聞いてみると、中国人の方はすごく家族のように温かく接してくれるというのがあります。高校一年生の時に大連に旅行に行った時に、私とお母さんは大連に久しぶりに行った関係で、全然道も分からなくて。その時に、たまたま通りかかった中国人の初めて会う方が、タクシーを呼んでくれて、そのタクシー代も払ってその場所まで連れて行ったということもあります。このように本当に実際に触れ合ってみないと分からないということがすごく多いと思います。メディアでは歴史問題とか、そういうマイナス面のことが多いと思うんですけれども、自分たちで行ってみて触れ合つてという機会が、今、日本と中国は少ないと思うので、そういう機会が増えていったらなというのをすごく感じます。

**川村教授** 実際の中国を見る、あるいは実際の日本を見るということ、百聞は一見にしかずと言いますが、そのこ

とが基本になるんでしょね。単にメディアを通したイメージで漠然と、あるいは感情的にイメージを描くだけではなくて、若いうちには相手国へ行く。あるいは日本に来ている中国人と接触する。あるいは、中国にいる日本人とコミュニケーションを図る。そういうことを通してまた理解が違ってくるというふうに考えます。いろいろお互い、参考になったと思います。

### 第三章 日中の課題をどう克服するか

司会・上田幸師さん それでは、休憩を終えて、ただいまから討論会後半を再開します。

川村教授 では、後半へ移りたいと思います。後半は二つのテーマです。まず一つ目は、日本と中国の間の課題について話していきたいと思います。この課題を三点、私から



司会の上田幸師さん

前半に紹介しました。島の問題、それから、歴史認識の問題、そして、国民感情の問題ということですから、どうも、こうした日本と中国の間の課題、どのように考えるか。それから、

どのようにしたら克服できるのか。この点について若者としてどう考えるかということ率直に出してもらいたいと思います。歴史の認識の問題についてはそれぞれどう考えているかということです。ここからまず入っていきいたいと思います。やはり日本と中国の間にあった不幸な戦争というものをどう捉えるかという認識が必ずしも一致していないということ。それに伴って靖国神社参拝という問題が起きてきている。あるいは、南京事件についても日本の一部で異論が未だに出ている。若者にとってはこの歴史というものは一体意識しているものなのか、それとも意識しないものなのか。どう思っているかということから入っていきいたいと思います。また、相手の学生に対してこういうことを聞きたい、この点が疑問だ、と。そういうことについても率直に出し合っていきたいと思います。

#### 1、尖閣諸島の領土問題

問題棚上げではなく、踏み込んだ議論を

丁天聖さん 日中の交流が一九七二年以前は国民レベルだとあまりなかったと思うんです。でも、七二年以降、やはり交流とかが増えて、相手国にも行ったりして、相手も来

でもらう。その関係で皆さんが言っていたように交流の中  
で、「実は日本の文化はこうだったんだ」とか、「日本人の  
性格はこうだ」とか、「中国はこう」というのがいろいろ  
あると思うんですけど。でも、その七二年の時にもそうだっ  
たと思うんですけど、やはり歴史問題とか、島の問題はも  
ろに棚上げにすると言っているのです。でも、逆に棚上げに  
したことによって、例えばさっき言った世論調査で「親し  
みが落ちた」というときは、そういう問題が直接的な原因  
になっていると思うんです。そうなったときに、島の問題  
を解決しないと、歴史問題について話さないことを続け  
ていたら、交流だけ続いているなら、元の水準に戻るかと  
いったら、落ちた原因がそれなので戻らないと思うんです。  
というときに、やはり交流も大事で、交流しつつ、さらに  
この踏み込んだ問題にもやはり、こういう場とかを借りて  
双方で意見交換とか、心の内を明かすような議論ができた  
らな、と。本当はいろんな場でそういうのをできたらなと  
思っています。

そういった面で、例えば政府は島の問題とかを、中国の  
「核心」とかそういった表現で絶対に譲れないと思ってい  
るといふんですけど、例えば日本人とかに、「尖閣はどつ  
ちなのか」というのを聞くと、「日本の」とは言うんです  
けど、じゃあ、根拠とかもある程度言える人もいるんです

けど、じゃあ、それを「絶対に譲れない」とか、直接我々  
の生活に関係してくるかといったら、関係は、そんな直接  
的にはしてこないもので、そういった意味で中国側はあまり  
普段は聞けないと思うので、この場を借りて、じゃあ、ど  
う思っているのか。「政府と全く同じだ」とか、「政府はそ  
う言っているけど、どっちかというところは交流とかそうい  
うのを重視している」という意見もあると思いますし、そ  
れを中国人の学生たちはどう思っているのかを聞きたいと  
思います。

#### 国を守る、譲れない

呉婷婷さん 実は私にとってはやはり政治的な問題は詳し  
く知りません。だけど、私の考えでは、やはり国はどっち  
かというよりも、自分の国の利益が侵害されたということ  
が一番我慢できないと思います。やはり、いつも先生とか  
社会人とか外国の方々に言われましたけど、中国の愛国教  
育について他の人は教育されたという感じですけど、私の  
気持ちではやはり私が自分で中国が好きです。それも昔か  
ら中国の有名な詩人とか、いろいろ有名な大文豪とか、自  
分の国を愛す気持ちで書いた作品をいろいろ残しました。  
それは我が国の伝統だと思いますから、やはり島の問題も  
さつき尖閣諸島といたしましたけど、中国では釣魚島って言い

まずけど、やはりこちらの気持ちは国を守りたいですから。ただ、日本の方々も自分の国を守りたいですから、許せない、譲れないという気持ち強いのだと思います。

**川村教授** 今、呉さんが中国語で言ったのは、「釣魚島」という中国名です。日本では尖閣諸島と言って、その中の一番大きな島は魚釣島というふうに日本語で付けています。歴史的に見ると、元々の名前は中国名、釣魚島です。島の名前が中国名だったのを日本名に変えています。

#### 両国で島の共有を

**山本裕佳さん** 私は父が日本人で母が中国人ということもあって、どっちが利益を取ればいいということは正直言えなくて。私は川村先生の授業を聴講させていただいた時に、初めてカイロ宣言、ポツダム宣言の中でも尖閣諸島の問題が取り上げられているということを知りました。でも、日本人の中では、中国人の皆さんがどういう教育を受けているか、私は全体的に知ることはできないですけれども、私が高校までの時はポツダム宣言の中にそういう内容が書かれていたというのは知らずに、ただただ、メディアが尖閣諸島の問題に対して中国側がいけないということを一方に教えられてきているので。あと、私個人としてはそんなに甘い問題ではないと思うんですけれども、できれば両国が

尖閣諸島の利益を共有できれば一番いいのかなというふうに思います。

#### ポツダム宣言、カイロ宣言にさかのぼる

**川村教授** ポツダム宣言とカイロ宣言の中に、尖閣諸島が取り上げられているというのは、実は不十分な解釈で。簡単に言いますと、1945年7月、アメリカ、イギリス、中華民国のトップリーダーたちが集まって、要するに戦後の日本をどうするか、と。日本がもうギブアップ寸前だったんです。そのことについて話し合って文書にした。これがポツダム宣言。その第8項の中に、「日本の領土はこれに限る」ということが書いてあるんです。その中で、「カイロ宣言の内容は履行すべき、実行すべきだ、と。そうすると、カイロ宣言とはなんぞやということ、そこからさらに二年前の一九四三年十一月、やはりアメリカ、イギリス、中華民国のリーダーが集まって、日本に対して徹底的な攻撃を仕掛けていくことを話し合っているわけです。この中で、日本がそれまでに奪ったいろいろな外国の土地、あるいは島々を返還させるといことがうたわれているんです。この中に、清国の人から奪った一切の地域は中華民国に返還すべきだ、ということが書いてある。そうすると、日本政府が尖閣諸島を日本の領土に編入すると

決めたのは、日清戦争が終わる直前の一八九五年一月、明治政府の閣議決定です。じゃあ、この尖閣諸島は中華民国に返還すべき島なのかどうか。ここが微妙なんです。

現在の中華人民共和国の主張は、日清戦争以降、清国人から奪った土地は中華民国に返還すべきで、「これは当然尖閣も含まれている」と。だけでも、日本政府は、「そうじゃありません。これは奪った島ではないんだ」と言っているわけです。ポツダム宣言にもカイロ宣言にも、尖閣諸島、もしくは釣魚島という、この島の名前は出ていない。だから、困るんです。はつきり出ていればいいんですけど。これを補足しておきます。

#### 島の主権は譲れず、資源の共有を

王麗舒さん 私は中国人として日本文化が好きということですが、でも、やはり自分の国の利益に触れることや、自分の国の利益が侵害されることは、それでも譲れないと思います。確かに、先ほど丁さんがおっしゃったこの島の問題や台湾問題などのこういった問題は、解決が早いほど両国の友好関係に役立つと思いますが、でも、この数十年にわたって、中国も日本もどちらでも自分の言い回しがありますので、やはりこういう問題は早い解決はちょっと難しいと思います。

私は今、ここに座っている若い私たちのような、特に外国語学習者としては、私たちのできることはやはり言葉の壁を超えて、このような中日交流イベントや友好イベントに参加して、中国人として、今ご来場の日本の方々たちに少しでも中国の良さを知らせることと、中国でも日本が好きな人も大勢いるよということを皆さんに知ってもらおうということのが、今日ここに座っている私の役目だと思います。

そして、先ほど山本さんがおっしゃった、両国が島を共有するという考えは私はちょっと納得がいかないと思います。領土問題は妥協ができませんので、そういう所有権をきちんと話をして、どっちの国に所属するかという問題をきちんと決めなくてはいいけませんので、そういう問題における資源は共有できないと思います。でも、島には妥協できないと思います。でも、両国関係のためには資源の共有も許されると思います。

川村教授 領有権を主権といいますけれども。それは譲れないが、島の海底に眠っている資源や島周辺の資源についての共有はできるんじゃないか、と。こういう考え方ですね。

島の問題はグレーに

塩井春貴さん 僕のスタンスとしては、尖閣諸島問題はグレーにしておく方がいいんじゃないかなと思います。地理的に見て、琉球王国に近かったり台湾に近かったり、中国に近かったり、なんとも言えない場所にあるので、この問題はなんとも言えないんですけれども。ただ、この問題から思ったのは、やっぱり日本の見方、日本の報道だと日本の見方というのをしていると思いますし、中国の報道では中国の見方という見方で報道していると思うので、こういった場合には国際的な中立な視点から問題を考えることが大事だと思っていて。そこで日本の尖閣諸島の問題時に行った方法というのは国際的に見たらあまり良くなかったのかなというふうに思います。

僕の知り合い、イタリア人なんですけれども、イタリアにはコルシカ島という場所があって、ナポレオンの故郷で、元々イタリア領だったんですけど、今ではフランス領になってしまっている島で。彼らからすると、なんでこんな島の話でごちゃごちゃやっているんだ、と。聞いてみたのが、先ほどから自国の利益という話が出ていますけど、その具体的な利益というのはどんなことなのかというのを聞きたいです。

張雅さん 利益というのは尖閣諸島のところで石油の資源

がとても豊富だという調査が出てきましたので、その調査が出た後に、この尖閣諸島に対する議論が高まっていく形になっています。

呉婷妍さん 具体的な利益は石油とか資源とか、固体なものだけではなく、例えば文化。我が国の端午節という季節ですけど、今は国連でもう韓国のものになってしまっています。ちょっと理解できませんが、やはりこういうところは私たちも腹立つとか、やはりちょっと許せない気持ち。だから資源だけではなく文化とか、中国の一人ひとりの国民の命とか、全部我が国の利益です。

川村教授 文化まで広げるとちょっと広すぎるので、まずは今話題になっている島の問題ですね。これについて自国の利益が損なわれているのは、石油資源の問題以外に他にどんなことがあるのでしょうか。

#### 島の共同開発を

王培璐さん 私が主張するのは、国家利益が一番重要なものです。もし両国の間で国家利益があったら両国の関係は良くなるかもしれない。でも、もちろん島の問題について、中国と日本の共通利益がないでしょう。昔、中国の外交官は、現状を変えないで争いを置くという政策を提出しました。中国語で「搁置爭議」という政策を主張しました。そ

ういう政策を実施したら、中日の關係はうまくいききました。最近はそのような政策を実施しなかった。だから、両国の關係はうまくいかなかったでしょう。中国と日本の間、もし共通利益があったら共通利益について、今は共通利益がなかったら一緒に島を開発した方がいいと思います。

川村教授 今の王君の話の中で、中国語で出てきたのは日本語で「棚上げ」と訳されます。つまり島の問題については中国と日本双方で棚上げしておくという、そういう話し合いがあったのではないかとということです。一九七二年九月下旬、北京で日中国交正常化交渉が行われました。これは当時の田中角栄首相と中国の周恩来総理が四日間にわたって膝詰め話したわけです。一九四九年十月に成立した中華人民共和国と日本国との間で、それまで外交関係がなかったんです。この一九七二年九月になって初めて国交正常化ということが実現できたんです。この話し合いの席で、例えば戦争の問題をどうするか。戦争賠償責任問題をどうするかとか、それから、台湾の扱いをどうするか。こういう難しいことが話し合われた。

この話し合いが一段落した時に、この島のことを田中首相から切り出したわけです。「この島の問題についてお国の態度はどうでしょうか」、こう聞いたら、周恩来総理は、「いや、ここで話し合うのは良くない。今大事なのは国交

正常化である。この話はまたにしましょう」と。で、田中角栄首相はそれに対して、「分かりました。私はこの問題を取り上げずに日本に帰るわけにはいかない。だけでもここで周恩来総理の言葉を聞いた。またにしましょう」  
こう答えた。ところが、中華人民共和国の政府はこのようにトップリーダーたちの間で棚上げの約束ができたと思えたんですが、日本の外務省は「一切約束はなかった」と、否定しているわけです。それはなぜかというと、日本の外務省の公文書には一切記録されていないわけです。

しかし、この席に立ち会った日本と中国の両方の外交官が後々証言をしています。日本の当時の橋本恕中国課長、この人は二〇〇〇年になって日本の雑誌のインタビューに答えています。この時、田中角栄首相と周恩来総理の間でどういうやり取りがあったか。私が述べたようなことです。同じように中国側の外交官、張香山も後々、やはり手記を書いた。本を出している。この本の中で、日本の外交官が証言したのとほぼそっくりの証言を書いている。つまり、立ち会っていた両国の外交官が同じように記憶しているんです。記憶、記録している。ということは、この言葉のやり取りはあったというふうに事実を捉える。私は島の問題で棚上げについて両国トップリーダーの間に「暗黙の了解」があったというふうに研究上解釈しています。暗黙の了解。

それ以来ずっとこの問題は棚上げということで来たわけ  
です。

ところが、二〇一二年九月、日本国政府がこの島、五つ  
ある島、このうち日本国が所有していた島以外に日本人個  
人が持っていた島を日本国が買い上げた。全て所有権は国  
のものである、と。いわゆる国有地にしたんです。これが  
国有化というものですけれども。これに対して中国政府は  
「棚上げの約束を破った」と捉えたんです。日本国がこの  
尖閣諸島、島全体を全面的に日本国の支配にした、と。こ  
ういう捉え方をした。それで、残念ながら一氣に対立状態  
になったわけです。しかし、現在は沈静化しておりおます。

この問題について、中国の学生は自国の利益が損なわれ  
るという捉え方の中で意見を出していますけれども。その  
中で第三の道として、両国でこの島を共有できないかとか、  
あるいは、両国でこの島の資源を共同開発できないかとい  
う考えも出ていました。そこで、島の問題はなかなか難し  
いから、「棚上げ」にしておきましょう。

歴史の問題に移りたいと思います。戦争についての考え、  
この歴史について皆さんはどう考えていますか。

## 2、歴史問題をどう考える

罪に向き合い次世代に伝える

張雅さん 歴史認識に関しては、私はどういうふうな次世  
代に伝えていくのが重要だと考えています。安倍首相は  
戦後70年の談話で繰り返し痛切な反省と心からのお詫びを  
表しますけれども、靖国神社の参拝をやっぱり繰り返し続  
けています。中国人から見ると、戦犯が合祀されている靖  
国神社に国の首相が公然と参拝するという行為が、中国の  
人を傷つけることになると考えています。中国の人々は今  
も靖国神社ということに対しては問題点としていなくて、  
戦犯が靖国神社に合祀されていることも問題になっていな  
くて、ただ国の首相として公然と靖国神社に参拝するこ  
とに抗議しました。

あと、もう一つ。歴史認識に関して一九六五年にドイツ  
は元ナチス親衛隊の隊員をドイツ人自ら裁判を行って、今  
でも元親衛隊の責任を追求しています。その裁判が行われ  
た時にいろんな学生さんも法廷に行って、現場でユダヤ人  
の証言を聞きに行きましたので、私はこの『フランクフル  
ト裁判』という映画を観たときにとっても衝撃を受けました。  
過去の歴史に対して、ドイツの自国民は自分で過去の歴史

を克服して、自分が犯した罪に向き合って次世代に歴史を伝えていくことに、私は過去の歴史を風化しないようにする、こういった行為に対してはとても衝撃を受けながらも、重要だと考えております。

### 総理の靖国参拝は国際的に批判

塩井晴貴さん 靖国神社について、総理の参拝というと、それは国際的に見ても常に批判されていると思いますし、そういった行動というのは僕は個人的には理解できません。その理由というのは考えたときに、戦争をさせたい人というのはいるのかなと思います。どの国にも、例えば日本だったら親中派、反中派、中国だったら親日派、反日派というのがいるように、日本の場合、戦争をさせて軍需産業というのを伸ばせば、日本の利益になると考える人もいると思う。なので、しつこく靖国参拝というのをしていると思います。

仲田結稀さん 私は基本的には靖国神社に参拝すること自体をあんまり悪いと思っていないで、戦犯が祀られているというのが一番問題だと思って。そこを分けたら、元々祀られている他の人たちは日本人の祖先だったり、今この日本があるのに関わった人たちだと思うので、それを一国の総理が参拝しに行くこと自体はそんなに悪いことではない

と思います。

順序としては、分けてから首相が参拝に行けば、それが一番いいのかなとは個人的に思うんですけども。現に今は合祀されているので、行かないほうが国際社会的にはいいのかなと思います。

### A級戦犯を密かに合祀、困難な分祀

川村教授 A級戦犯という人たちがこの靖国神社に祀られている。これを合祀といいますけど、A級戦犯だけを靖国神社から取り下げていったらどうか、と。要するに分ける(分祀)ということですね。しかし、このことに対しては靖国神社自身が「それはできませんよ」と言っているわけです。

この靖国神社というのは元々明治の時代に出来た東京招魂社、「魂を招く社」というものが発端です。それから十一年後に靖国神社というふうに名前が変えられている。靖国というのは、国を安らかにする。明治天皇が名前を付けたわけです。国の戦争で命を捧げた、命を落とした人たちを祀るという神社なんです。日本の各地にある神社とは全く性質が異なるんです。ここに明治以来何人の人たちが祀られているかというと、246万柱です。数え方は柱(ちゅう)で呼んでいます。日清戦争、日露戦争、日中戦争、ア

アジア太平洋戦争で命を落とした日本人が祀られているんです。ここへ遺族がお参りに行くということは、ある意味で自然なことと言えるわけです。

日中戦争、アジア太平洋戦争が全て終わった後、東京で戦争責任を裁く東京裁判が行われたんです。この東京裁判の結果、そういうA級戦犯という戦争の責任者という人たちが裁きを受けて、死刑判決を受けているわけです。この人たちがその後、一九七〇年代の半ばに密かに靖国神社に祀られた。そのことが発覚して問題になったわけです。それ以前は当時の天皇陛下もここに参拝をされたけれども、A級戦犯が祀られていることが分かって、先の昭和天皇はその後一切靖国参拝をしていない。そこへ日本の首相が参拝に行くということに対して、中国政府や韓国政府から抗議、あるいは批判が出ているというわけです。

南京事件をどう捉えるか

王儷舒さん 靖国神社を参拝する行為は果たして正しいかどうかという問題に対しては、日本人の立場からすると、命を自分の国家に捧げる戦士たちを祀る気持ちもあるかもしれないませんが、でも、私の場合としてはもつと重要なことは、日本側が南京事件をどう捉えるかどうかという問題だと思えます。

私は中国ならどこでもそうだと思いますが、高校の歴史の授業で今、日本政府はまだ南京事件を否定しているという報道が報じられているので、でも、先月南京に旅行に行った時、南京事件の記念館も行きました。そこで見たのは、日本人が天津の日本人会と上海の日本人会と中国のどこどころから来た日本人会が紙で作られた鶴をそこに置いてあって、長い紙みたいなものがあって、その上に「中日平和のために」みたいな言葉が本当にいっぱい書いてあります。

私が思うのは、やはりメディアや政府も自分なりの立場はありますので、一番重要なのは私たち国民としては、そして、日本の国民とこのことをどう捉えるかという問題です。このメディアでは見られない、生活の中に隠された両国民を結ぶ赤い糸が存在しているということを、今日、せっかくの場を借りて、皆さんにも伝えたいと思います。南京事件、政府はどう捉えるかは私たちは変えられませんが、でも、国民一人ひとりの考えはやはり私が今日ここで自分の意見を述べ、皆さんの考えを少しでも動かすことができたら、これもこういう小さな動きも日本の政府を、そういうニュースとかメディアとかを動かすことができるのではないかと思えます。大事なのはやはり私たち、政府とかメディアとかではなくて、一人の国民として自分たちがどう

考えているかという問題です。そして、こういう問題が解決すれば、靖国神社を参拝する行為の成否について、ちゃんとした結果も出るんじゃないかと思えます。

**川村教授** 南京には南京虐殺記念館というのがあり、私も新聞社の特派員時代に取材に行きました。お互いがかなり本音で意見を出してくれていますので、なかなか重い言葉もありましたね。

## 第四章 日中両国の交流と協力

後半の次のテーマ。では、これから日本と中国はどのように付き合っていくことができるか。どのように協力し合っていくことができるか。そして、若者同士どのような交流をすることが必要か。あるいは、私はこういうことがやりたい、あるいはやっているということがあれば、それぞれ発言してほしいと思います。

知中派、知日派を増やす

**丁天聖さん** 日中の島の問題とか歴史の問題をこのような対話を介して、解決まで行くというよりは、やはり重要なのは、このような問題が発生したから国民感情がぶつかり

合っているので、この問題についてまず意見交換をして、先ほど先生がおっしゃったようにもう一度棚上げするか、こういう問題はあるけど、経済は経済でちゃんとやって、評価すべきところは評価し、国民でいい印象を持っているというのを、歴史に関しては確かにいい印象を持っていないけど、歴史とか島の問題に関しては。ただ、別のところではいい印象を持っているよという状態にしないと国民感情は解決しないので、それが重要かなと思います。また、いわゆる親中派とか親日派が一定数いて、それが日中関係を引っ張っていくというのもある程度大事だと思うんですけど。それよりも知中派、中国を知る派とか、知日派、日本を知る派を増やすことは良好で安定的な日中関係を構築するうえで日中両国にとり、さらに重要なことで、大変必要なことであると思います。

今回のこの討論会にあたって、課題本として『日中関係史』という本を読んだんですけど。かつての日中両国の政治界で日中関係の改善に向けて奔走した知中派、知日派はやっぱり戦後から72年経って、日中国交正常化からも45年が経った今の政治の世界にはもういないんです。しかし、やっぱり彼らの姿勢に学び、もう一度友好関係、それは棚上げでもいいと思うんですけど、を築くことはやっぱり不可能ではないので、それが大事なかなと思います。最終的に

目指すところとしては、今、戦争の時代が記憶ではないですよね。記憶ではなく既に歴史となったので、今の世代、我々とか今の世代、直接戦争を経験していないしという今の世代であるからこそ、逆に歴史認識問題についてはやはり学問的にきちんと捉え直して語ることが相互理解の行程にとつては有益、有効なのではないかと考えております。

仲田結稀さん 私が思うのは、日本人の多くの人は中国を見るときに、まずプラマイゼロの状態じゃなくて、マイナスのイメージから話を考え始めているので。それを生み出しているのが、島の話とか歴史認識の話とか、そういうのに付随して、全然関係ない話も全部メディアとかで中国に否定的な報道がほとんどを占めて、それがマイナスイメージをつくり出すと思うんです。

例えば日本は戦争をしていた時代にアメリカに原爆を落とされてという話があっても、別にアメリカが例えば米軍基地がいっぱいあって、米軍の人が、すごく一部の人ですけど、罪を犯したりする人がいても、アメリカに対しての全然それに関係ないようなネガティブな話とか報道はほとんどしないのに、中国や韓国に対してはそういうことがいっぱいあって。その影響がマイナスイメージにつながって、今を生きていく中で、否定的なイメージから入ってしまうのは本当にもつたないないという話で。これから、

いい関係を築くためにはまずそういうネガティブキャンペーン、お互いのことを否定的なことばかり言わずに、例えば自分の目で見たり体験したりとか、そういう交流が大事故だし、実際に旅行に行ったりとか、そういうことをしてもうちよつといい関係を、歴史とかの話をするときは今みたいに討論みたいな形になると思うんですけど、普段の話とかをするときはもうちよつとフラットな状態で物事を見られる関係になれば一番いいと思います。

本当の日本を伝えたい

呉婷妍さん 先月、『この世界の片隅に』というアニメ映画を観ました。やはり広島原爆のことですけれども。戦争というものは被害国と罪を犯した国と両方共苦しい経験をしました。ですから、そんなに責めなくてもいいと思います。それは戦争を犯した人の罪です。今の若者たち、今ここに生きている人たちのせいではないですから、別にみんなその責任を担わなくてもいいと思います。

そして、マイナスイメージについては、これはやはり中国と日本と国の関係は実はあまり関係ないと思います。日本のある番組が私は大好きです。『月曜から夜ふかし』という番組ですけど。やはりこの番組の中でも日本のあちこの地域にお互いにマイナスイメージを持っていることも

知っていますけど、これも中国と同じです。例えば、あの地域の人が大嫌いとかが、こんなことも中国もありますから。マイナスのイメージはやはりメディアの報道ですよね。中国も同じです。日本という名前が出たら、やはり歴史とか戦争とか、悪いことばかり映っていますけど、私みたいな若者はインターネットを通じていろんな手段で、真実の日本を一角だけですけど、見えます。ですけど、多くの人は、例えば日本にあまり関心を持っていない人は、やはり教科書の中に載っていることだけ知っていますから。だから、これも私も責任を感じました。私は中日に架け橋としてやはりそんな人たちの相互理解のために日本にあまり詳しくない人たちに本当の日本、そしてフレンドとか、友好の気持ちを彼らに伝えたいと思います。

### 互いのいいところを発見

王儼舒さん 私はさつき仲田さんがおっしゃった内容にごく共感できると思います。ある日、私は英語専攻の人にこういう問題を聞かれました。「日本人留学生と交流するときに、政治とかそういう話はいらないですか」「私は全然しませんが」。だって、そういう問題はそんなに真面目すぎるとは思いませんから。そして、日本人留学生と交流するということは一番大事なのは、やはり互いの「かわいさ」

を発見することだと思います。

今うちの大学にいる、私と仲の良い名古屋出身の日本人の留学生は、初めて中国に来るときは、中国人が例えば女の子と女の子が手をつなぎながら歩んでいることにすごくショックした様子でしたので、私は「それは多分日本人はこうすることは避けているかもしれないませんが、中国ではこういうことは仲のいい象徴ですよ」って彼女に言いました。そして、中国人は例えば、友だちの間に「ありがとう」とか言わないということも彼女に伝えました。誤解を起さないように。やはり政治とか歴史とかそういう問題より、やはり私たちのような若い世代が交流する中で一番大事なのは、お互いのいいところを発見することだと思います。

もう一つ皆さんに質問があります。皆さんは多分、去年ヒットした映画『君の名は』を観たことがありますか。多くの人は「観たことがありますよ」って答えるのでしょうか。今の中日関係は私が思っているのは、去年ヒットした映画『君の名は』の中のセリフのようなもので、そのセリフは、「寄り集まって形を作り、ねじれて絡まって、時には戻って、途切れてまたつながり」というようなものだと思います。そして、国同士の間ではニュースのうえでは、両国の関係はそんなに望ましく見えないかもしれませんが、でも、

ニュースに取り上げられないかもしれないことが、例えば私と日本人が交流する中で、日本人のこういうかわいさを発見することとか、やはり両国の関係、特に若者の間同士の交流の促進に役立つと思いますので、若者の交流は大事だと思います。

そして、今年は中日国交正常化四十五周年。また、来年は中日平和友好条約締結四十周年ということでありますので、この時期は両国の関係が新しい夜明けを迎えるときだと思います。そして、先ほど申し上げたとおり、若者交流もこの大事な時期に欠かせないと思います。私も日本人と交流する中で、やはり文化での違いを知ることによって交流を促進することを感じましたので、両国の若者は一定の言語能力を備え、相手国の文化と国民性を知ろうとだけ交流することが望ましいと思います。日本語ができるだけで相手の文化を知らない、誤解を招くかもしれませんから、同じく文化知識があるだけで日本語ができないと、相手に自分の意思を伝えられないと思います。両国の若者は言語能力と文化交流を共に注視し、効率のいい交流を目指すべきだと思います。そして、この二つの基本のポイントを踏まえて、両国の関係に自分の言語学習者としての役割を果たすべきだと思います。

#### 大規模な民間交流を

塩井春貴さん 一部メディアの中国に対する報道による、日本人の対中イメージの悪化というのが日中友好関係の妨げになっていると思います。例えばPM2・5に関する報道だったり、偽食品、中国人のマナーに関する報道だったり、こういった報道をいつまでもいつまでもしつこく引き伸ばす。こういったメディアというのは本当に問題があると思っています。

それで、今後両国がどういった協力ができるかという点で、政府をあてにしない、政治色のない民間交流というのをしていくことが重要だと考えています。例えば、中国人の二胡の奏者と日本人のコラボというのがあったり、日本語サロンでの両国民の交流というのは、民間交流としてすごく成功している例だと思います。そういった中で特に影響力のあるアニメとか漫画を始めとする日本のポップカルチャーで日本の魅力を発信して、それをきっかけに日本理解とか信頼というのを深めていってもらいたいと思っています。例えば国際漫画賞とかコスプレサミットというイベントなんていうのは海外でよく開催されていると思います。また、中国の市場というのはこれからもっともっと重要になってくると考えていて、中国のアニメ、漫画関連の市場規模というのが2、500億元、約

4兆2,000億円なんです。数年後には5,000億元、約8兆4,000億円まで拡大されるという予測もあります。現にアメリカ文化の象徴のハリウッドなんていうのは、中国の観客を無視すると売上のマイナスになるということで、今後は中国市場を意識して映画を作製していくのではないかとという見方もあるぐらいです。これからは影響力が大きい、日中両国若者の団体機構などのよる、民間交流よりもさらなる大きな規模での交流というのが必要だと考えています。

#### 共通の歴史教科書を

山本裕佳さん さつき大連大学の呉さんから、歴史問題に関して私たち今の若い世代が責任を負わなくてもいいという意見にはとても賛成なんです。やっぱり両国、隣国としては、ちゃんと今までに起きたことをしっかりと知っておく必要があると思っています。その際に私たちはいつも教師から教育を受けるときに、その教師の主観で教育を受けることが多いと思っています。私の高校時代の先生はすごく中国があまり好きじゃない人だったので、それで歴史問題について中国の批判しか言っていて。やはり教育とか教科書、歴史問題の認識の違いに関しては日中両国が例えば共通の教科書を共同でつくるとか、研究者同士が相互に

意見を交換する会だとか、あと、客観的な意見を聞くために、日本から中国へ教師を派遣するとか、そういうことが私は必要だと思っています。

また、日本のアニメとかは結構中国に知られているんですけども、中国のアニメとかアイドルグループというのは、多分日本の皆さんはあまりご存じないと思うんです。その知る機会というのもあまりなくて。私は日中両方が共生していくという面では、今、韓国グループで、韓流が好きな人もいると思うんですけど、TWICEというグループが日本、台湾、韓国の人からなっていて、九人グループなんですけれども。そういう何か国が一緒に活動するというグループが日本からも出ればいいなと思っています。そうしたら、例えばTWICEだったら、日本でも中国でも韓国でも公演ができる機会が増えて、その国のカルチャーを知ることができると思っています。そういう機会があった方がいいと思います。

#### お互いの言語の勉強を

王培璐さん 中日は昔から一衣帯水の隣国であって、文化には共通点がたくさんあります。両国は偏見を捨てる必要があります。共通利益も存在しているので、協力に関する潜在力が強大だと感じています。私はずっと日中両国の仲

が良くなることを希望しています。相手を敵視しない方がいいと感じています。

中国と日本の関係が良い方向に進むのを妨げている要因は二つあります。一つは歴史の要因です。南京大虐殺、南京事件ですね。私の誕生日は十二月十三日。皆さんはご存じですか。南京大虐殺の記念日です。毎年、僕の誕生日を過ごすときに、いろいろな思いを出しました。そして、抗日ドラマ、実は私の祖母も抗日ドラマを観ることが好きです。冗談です。私は大連に行ったときに、日本人の先生がいます。この日本人の先生は中国の抗日ドラマが、あるいは愛国主義教育が多すぎると感じていました。確かにそうかもしれませんが、日本はどうですか。日本は歴史についての教育が、少なすぎるでしょう。それは歴史的な要因です。

もう一つメディアの要因です。日本へ来たら、中国に関するマイナスニュースが多いと感じました。中国国内でも日本に関するマイナスニュースが多いです。国民が相手国の真実を理解することができません。メディアは国民に対して真実の中国、あるいは真実の日本を理解してもらうことが必要です。そうすれば、相手国の印象が変わり、日中関係も改善されます。だから、メディアを通じて両国の関係を改善することができるかもしれないのを非常に感じて

います。そして、中日の政府間は公式な相互訪問を実施し、友好なコミュニケーションを図り、民間はもっと多様な交流を展開して、政府間交流の不足を補うことを実験すれば、日中関係はだんだん良くなると思います。

大学生はどうでしょうか。まず大学生の討論会や交流会、スピーチコンテストなどをたくさん開催した方がいいと思います。次は、アニメや映画、アイドルなどの交流文化を紹介しあって、自分と相手の共通の興味を探した方がいいと思います。そして、全面的に発展的な目で相手国を考えて、相手国の本をよく読んで、相手国の文化をよく理解して、相手国の長所を勉強した方がいいと思います。最後に両国の若者は、相手国の言語を勉強することを希望しています。これらができると、両国の関係の橋をかけることができると感じています。日本の若者は中国語を勉強したい人はだんだん少なくなるそうです。中国の若者は日本語を勉強する人が多いです。

中国も日本人向け観光ルートを

張雅さん 私は日中両国どの部分で協力できるのか、三つの分野で簡単に申し上げたいと思います。私は日本のアニメより、日本の文学の方に興味を持っています。最近、又吉直樹の『火花』という中国版が中国で発売されました。

彼は上海の講演会で、「音楽とお笑いは海を越え、国境を越えることができる」とお話しました。なので、私はもっと多くの日本文学を中国語訳にいただき、出版されて、日本文学を読むことに通じて、日本に対する認識のレベルを向上できると考えております。

二つ目の分野は観光分野ですけれども、最近、中部地域は昇竜道ルートを立ち上げました。私は中国の方もこういったルートの観光プロジェクトを立ち上げて、例えば鑑真和上のルートなどとか、より多くの日本からの観光客に中国に来ていただきたいんです。3つ目は介護の分野ですけれども。中国と日本両方高齢化社会に進行しています。日本の方は介護に関して多くの知識を蓄積していますので、中国は日本の知識を学んで、より良い社会を築くことが理想であると考えております。

**川村教授** 素敵な提案がありました。では、今日は非常に様々な内容について、日本と中国の学生たちが率直な意見を発表しました。これを聞いていらっしゃる皆さん、それぞれいろんなふうを受け止めていただけたと思います。また、何よりも個々の大学生たちがお互いの考えを知るといふ、相互理解の場になったというふうに思います。今回の討論会はここで一区切りをつけたと思います。ありがとうございます。

## 第二部 識者コメント

### 民主的なるものを考えよう



高瀬淳一（名古屋外国語大学世界共生学部長  
アメリカ政治、政治情報学）

私はこの四月に出来ました世界共生学部という、日中のみならず多文化共生を願う、そういった学部を担当しております。国内が多文化共生化する、と。中国の方ももう日本に六十五万人暮らしていらっしやいますが、いろんな国の方とも共に隣同士暮らす、そういう時代が来るということを前提に、世界と共に生きる術を学ぶ、そういう学部としてスタートしているところでございます。

討論を拝聴いたしましたして、大変よく頑張ったなと思います。私の世界共生科の一年生が出ましたが、中国の方たちも割とはつきりといろんな意見を言っつて、良かったなというふうに思います。ただ、どうしても、「トランプ時代の」と付いていますけれども、そして、また、トランプは

自国中心主義で、アメリカ第一でけしからんという、そういう土台のうえに議論がなされたようなきらいがございますが、どうもやはり議論の中では日中双方とも自国第一といったところがチラホラと見える部分もあったかなと思っております。「トランプは」とそれこそ敬語も付けずに名指しの方もいらっしやいましたが、「トランプは」と呼ぶことができるアメリカとそれから違う国があるんだということもやはり感じざるをえないなと思います。

欠けていた視点というのは、おそらくはトランプ政権というものが出来たその問題点はあるわけですが、とあって、民主的に選ばれたんです。そして、また、アメリカに行く、アメリカ人たちと話をすると、これはトランプさんの悪口を言う人が少なくとも半分ぐらいいはいる、と。日本におきましても安倍さんの悪口を言う人が非常に多くいる、と。これに比べて、習主席のことを悪し様に言うような方というのは、あまり中国研究者並びに中国からの留学生の中にはいないということがありまして。そこら辺が、実は私どもの国際関係という学問では、デモクラティックピース論というのがあって、民主的に選ばれている政権と民主的に選ばれている政権は戦争をほとんどしないという研究があるんです。ですから、戦争回避の方法は、実は民主化なんです。今日はその民主的なるもの話はなかなか

か出なかったのが、おそらくは私から見て欠けているポイントかなと思いました。

歴史認識は、これはまた両国のいろんな意見がぶつかる部分ではございますけれども、台湾はまた別の歴史観があるんですね。ですから、そこら辺は実はいろいろ聞いて、「友好関係を」とか、「アニメが」とか、「もつとお互いの言葉を勉強して」ということが盛んに言われましたが。私は実は趣味が旅行でして、ものすごく行くんです。それで、各地に行きますと、『じゃらん』というのがありまして、大衆評判を見ていろいろ選ぶんですけども、「外国人旅行客団体がどうのこうの」という書き込みが結構あるんです。なので、日中関係を良くしたいという方は、まずインバウンド、今盛んに増えているインバウンドのところまで日中関係が改善する方向に持っていっていただきたい。つまり、今まで中国の方と接したことがない日本の地方の方々が、今、ものすごく接しているわけです。ものすごく接していて、ものすごく中国についての先入観とか印象を得ている。それはメディアが悪いという問題ではなくて、今実際生身で中国の方と接する旅行業の方がたくさんいて、そこにまたいろんな課題がまだ残されているわけです。ですから、語学やアニメも大事ですけど、とりあえずその課題解決をしないと多文化共生がうまくいかないというふうに

私は思っております。

なかなか難しいのは分かりますが。台湾の人は一人で個人旅行をしても非常に評判がいいんです。旅館に行くと、「台湾の方」と言うと「OK」と。ところが、「中国人団体客」と言うと、「いやいや、ちよつと」というふうなところが日本にだんだん増えてきている。これは良くない風潮です。ですから、こういうのは歴史認識は分かりましたから、先に現状を少し考えるような方向をと、若い方々には願っておきたいというふうに思います。多文化共生は難しいのは分かっていますけれども、歴史の認識も確かにありますし、国々の政治の状況もありますけれども、まずはお互い課題を抱えているんだから、少しでも暮らしやすい環境にしましょうよということ、頑張っていた方がいいなと思えました。

## 相互理解を深めるための努力を



真家陽一（名古屋外国語大学中国語学科教授、  
中国経済、マクロ経済）

日中の学生が率直かつ、非常に私が聞いていてもレベルの高い議論を、長時間にわたって展開していただいて、本当に興味深く聞かせていただいたところです。私の方からはコメントを三つぐらいさせていただきたいと思います。

一つは百聞は一見にしかず。中国語で言うところ、「百聞不如一见」というのを再認識したというところ。確かに、今日中関係は一時期に比べれば良くなっていますけれども、決して良いとは言えないと思います。ただ、やはり日本で中国のことを悪く言っている人というのは、中国に行ったこともなければ中国人と話したこともないという人が多いです。逆に、中国で日本を悪く言っている人たちも多分同じだと思います。日本に行ったこともない。日本人と話をしたこともないということだと思います。

私は実は去年の八月まで日本貿易振興機構、英語の略称でJETROといいますが、日本の政府機関で働いてお

りまして、直近は北京に駐在しておりました。JETROは日本の企業の海外展開を支援する政府機関ということもあって、よく日本から出張の方が訪問されるんです。私は中国の経済の調査を担当していたので、中国について話を聞きたいという方がたくさんいらっしゃいました。そういった方々に「中国は何回目ですか」と聞くと、「いや、初めてなんですよ」という人が三人か四人に一人はいました。ですから、まだ中国に行ったことのない日本人って、これだけ近いんですけど、実は結構多いんです。でも、そういった中国に来たことがないという日本人の方が中国に来て、私の話を聞き、その後、中国の町を実際に目で見て、そして中国の方々と語る。そうすると、「なんか日本で報道されているのと違いますね。真家さんの言っていることとってちよつと楽観すぎるかなと思っただけど、やっぱりそうですね」というような感想を帰った後にメールでもらったりもしました。逆に中国の人も、日本人と交流する前は日本人ってすごいおっかない存在だと思っっている人も多いようなんですけど、実際に日本人たちと交流してもらうと、「思ったより優しい人が多いですね」というような声をよく聞いたということです。

日本と中国は隣同士ですから、これはどうやっても引越しようがありません。でも、億年の単位で言うのと離れる

かもしれません。二億五千年前は、この五つの大陸はつながっていたさうですけども。ですが、当面、隣同士引越すことはできません。しかも、経済的には非常に相互依存関係が深まっているという中では、お互いこういった率直に話をする場をできるだけ多くつくっていくということが大事故だと思います。それから、近年の日中関係悪化の要因として、相互理解の不足ということがよく指摘されています。しかし、何も日本だけが中国に対する理解が不足しているわけではありません。相互理解の不足とか、あるいは認識の違いというのは、どの国との関係でもあることだと思います。それは日中だけではなくて、日米であっても米中であっても同じだと思います。ですから、必要なことは、相互理解を深めるための努力を少しずつでも確実に続けていくということだろうと思います。その意味では日中関係を改善していくために、このような場を通じて、学生同士も含めて様々なレベルで膝を突き合わせた議論を重ねていくということが大事かと思っています。

二点目です。特に経済も含めてできるだけ客観的かつ中立的かつ正確なデータや事実に基づいて議論していくことが大事かなと思っています。日米中の経済関係についてちょっと解説させていただきたいと思います。特に貿易です。アメリカは世界最大の貿易大国。中国は二位です。中

国にとってアメリカというのは最大の貿易の黒字国なんです。じゃあ、一体中国はアメリカに何を輸出しているんでしょうか。中国がアメリカに輸出している品目の第一位はパソコンです。第二位が携帯電話なんです。この二品目が非常に多いです。ただし、これは中国が海外から輸入した部品を元に組み立てた完成品がほとんどなんです。どこのメーカーがつくっているかという点、Appleであつたり、アメリカのヒューレット・パッカーであつたり、DELLであつたりするわけです。皆さんもiPhoneを使っていると思います。実は私もiPhoneを使っていますけど、ここの裏側を見るとこう書いてあります。「designed by Apple in California, assembled in China」と。このAppleの携帯電話は大連大学の王さんの故郷の河南省の鄭州という所で作られています。作っているのはAppleじゃないですよ。ホンハイっていうSHARPを買収して有名になった台湾の企業の子会社で、フォックスコンというのがあるんです。この会社が河南省の鄭州でつくって、つくられた製品は日本の全日空の貨物便で日本に鄭州から直接来ています。ですから、中国とアメリカの貿易って見方を変えると、中米貿易じゃなくて米米貿易だったりするわけです。ですから、

仮にトランプ大統領が中国がアメリカにとって最大の貿易赤字相手国だからといって、例えば「45%の関税をかける」って以前言っていましたけど、もし本当にかけたら、それはアメリカの企業にも及ぶということで、自分で自分の首を絞めてしまうということになります。じゃあ、他方、中国はアメリカから何を輸入しているか。アメリカから何を買っているかということなんですけど、一位はなんと大豆なんです。大豆。二位が航空機です。飛行機です。三位が乗用車なんです。この三品目が多いです。ということでは、アメリカが中国の製品に高い関税をかければ、当然、中国は報復して、高い関税を今度はアメリカの製品にかけます。そうすると、アメリカの農家やボーイングやあるいはGMなんかといったアメリカの企業は大打撃なんです。でも、アメリカの企業も実はしたたかで、ボーイングは今アメリカに工場を造っているんです。大連大学の呉さんは浙江省出身？ 浙江省に舟山というところがありますね。あそこで今ボーイングが工場を造っています。ゆくゆくは日本の空を飛ぶボーイングの737の最終仕上げは中国で行われるということになります。こういった形で結構アメリカも中国でいろいろと事業を展開しています。

また、日本はそういったパソコンだったり携帯だったり、飛行機だったり自動車だったり、そういったものをつくる

ために必要な部品等々は、実は日本からアメリカだったり中国に輸出しているということ。もし米中貿易戦争が起れば、日本にとっても大打撃。ですから、普通に考えればこんな無謀なことはやってはいけないということとは分かると思うんですけど、ただ、人間って神さまじゃないんです。間違いを起します。今日来ている学生さんたちが生まれるずっと前ですけど、今から約三十年ぐらい前。日本はバブル経済の時代でした。一年間で東京の土地の値段が70%近く上がっちゃうとかいうことが起こった。だけど、それについては誰も変だとは思わなかった。あるいは、最近の話題に移すと、日本の東芝という大手の家電メーカーがありますけど、今非常に経営が傾いていますけど、最大の問題はウエスティングハウスというアメリカの原発の企業を買ったことです。これは普通に考えればとんでもない高い値段で買っているんです。ですから、よく冷静に考えてみればおかしいというのは後で考えれば分かるんですけど、も、意外とその場では分からないということもあるということ。ですから、経済的に言うと、貿易戦争は起こらないといっても、そこはどうなるか分からないというのが人間の世界になってくると思います。

最後三点目は、日中の関係改善に対する今日討論会に参加していただいた正に次世代を担う若い人たちへの期待と

いうことです。国民感情の変化ということでしょうと、非常にお互いに親しみを持っている人が少なくなっています。日本では内閣府というところが外交に関する世論調査というのをやっています。「中国に対して親しみを感じますか。感じませんか」という問いですけれども、実はこれは一九七八年、約四十年前からやっているんです。直近の発表は去年の十一月の発表がございました。全体で言うと、日本人で中国に対して親しみを感じない人は80・5%です。8割超の人たちが親しみを感じない。親しみを感じるという人は16・8%、2割弱です。ただ、これは全体の答えということ、若い人、18歳から29歳に限って言うと、親しみを感じるという人は31・1%。ですから、倍近くいます。一方、親しみを感じない人は67・1%です。ですから、そういう一般的な比べて若い人たちはそれほど親しみを感じる人が少ないわけではないというのは、今日、討論を聞いていても本当に感じたところでは。

また、もう一点。この内閣府の世論調査では、前々回から新しい質問が加わったんです。それは、「今後の日中の関係の発展を重要と思うかどうか」という問いです。そうすると、中国に対して親しみを感じないという人が8割いるわけですけれども、「日中関係の今後の発展は重要だ」という答えは全体で言うと約73%です。ですから、「親し

みは感じない」と言いつつ、「日中関係は大事だ、重要だ」と思っている人が実は多いというのが一般的な日本人のコンセンサスなのかなと思います。ちなみに、これも18歳から29歳というところで、若い人ということに限ってしまると、「今後の日中関係の発展が重要だ」というふうに答えている人は、全体では73%ですが、若い人に限ると87%ということ、14ポイントぐらい高くなっています。そういうことから、今の若い人たちは日中関係の今後の発展を大事だと思っている人が相対的に多い。そういう今日討論会に参加していただいたような皆さんが、今後の日中関係に、お互いの言葉を勉強し、また今日、文化や習慣や歴史を学び、時間はかかると思いますが、着実に改善につなげていってほしいということを期待して、私のコメントとさせていただきます。ありがとうございます。

## 質疑

柳嶋さん 中国総領事館の領事の柳嶋（リュウ・エン）と申します。真家先生に質問ですが、先ほど「日本の一般人より若者が中国に対する好感度が高い」とおっしゃいま

したけど、これはなぜだと思えますか。若者が中国人と中国に接するチャンス、触れるチャンスが多いからですか。真家教授 ご質問ありがとうございます。経験論で答えさせていただきますと、私は JETRO にいたとき、中国に滞在して若い人の採用もやっていたんです。中国の若い人たちに必ず聞いていたのが、「どうして日本語を勉強しようか」と思ったの「って聞くと、大半の人たちが、やっぱり「日本のアニメとか漫画から興味を持って日本語を勉強しよう」と思いました」という声が圧倒的に多かったので、多分、大人はあまり漫画やアニメを見ないと思いますが、若い人たちは日本の漫画やアニメを見て、それで親しみを感じている人が多いのかなという感じがしています。それは中国の話です。

日本の人たちは多分、これもちよつと具体的なデータは持ち得ていないんですけども。どうですか、皆さん、どうして中国語を勉強しようと思ったの逆を聞いてみたい。実は私は大学に来てから、中国語学科の学生さんに何人も聞いてみた。「どうしてあなたは中国語を勉強してみようかなと思ったの」って聞いたんですけど、意外と多かった答えが、「本当は英語が勉強したかったんですけどどろ落ちちゃって、しょうがなくて中国語にしました」という人が意外に多くて、「え？」って感じたんですけど。

ただ、四年生の方々と話をしたら、「最初はそうだったんです。だけど、この大学で中国語を勉強して良かったです」って、四年生になって皆さん言っているんです。「やっぱり留学して中国に行けて、中国の人たちと交流してものすごく視野が広がりました。中国語を勉強してみても良かったです」というふうに皆さんがおっしゃっていたんです。ですので、中国もそうですよね。本当は語学で言う英語が一番で、次が日本語なんですけど、でも、そういうふう勉強して良かったなという人が増えてきている。そういうことがもしかしたら中国に対する親しみを感じる人が相対的に多い要因かもしれないと思っっているんです。

## 総括

川村範行（名古屋外国語大学外国語学部特任教授）

二年前、第一回がこの名古屋で始まった日中大学生討論会は、昨年、上海の同済大学で第二回が行われ、そして、今日、この名古屋外大で第三回が行われました。この討論会に参加した学生、両国の学生同士が非常に打ち解けて、そして、かなり親しくいろんな話をしているという。また、この公の場でも自分の意見、考えを述べあっている。これ

よってかなり絆が深まったということが言えると思います。三年、三回にわたって、一昨年は八人、昨年の上海は十五人ぐらい出場していましたから、合わせて三十人近く、両国の学生の絆が出来た。この蓄積をしていくということとはとても大事だと考えております。この絆が出来たこの若い人たちがもう今簡単にLINEで、あるいはスマホでその後も連絡を取り合っている。そして、社会に出ていろんな場で仕事をする。また、どこでどういうふうにもたお互いが出会うか分かりません。そこで、この討論会でつくった絆というものを、また社会人になってからもぜひ発揮してもらいたい、と願っています。

## 閉会挨拶

俞曉軍（名古屋外国語大学外国語学部中国語学科長）



本日の「討論会」は如何でしたでしょうか？ その感想につきましては、本当は、本日も来場の皆様一人一人に伺いたいところです。先ほど、休憩の時間で、うちの私の学科の学生二人に聞きました。一人は、「面白かったです」。

もう一人は、「すごかったです」。結構評判が良かったようです。私個人の感想としましては、日中両国の八名の大学生代表の討論は、予想をはるかに超えたもので、大変素晴らしいかと思っております。

正直に申しますと、「討論会」の始まる前、私は少し心配していました。ご覧の通り、今回の「討論会」の副題は「トランプ時代の日中関係」ですが、これは、本学の学長亀山先生がご提案くださったものです。前の二回の「討論会」と比べると、日中の関係のみならず、アメリカの要素が加わりました。これは、一層問題の本質に突っ込む狙いがあったと思われます。「語学を中心に勉強してきた大学生にとって、このような議題を本當にうまく議論できるかなあ」と、私は少し心配していました。しかし、本日の「討論会」が進行していくうちに、私の心配はいつの間にか雲散霧消していました。十二分とは言えませんが、本日の討論は日中関係問題の核心に迫り、一歩踏み込んだ内容を議論できたとと言えると思います。

これは、共催者、後援者、学生代表を派遣してくださいました日中両国の大学など、多くの関連団体からの多大なご支援ご協力の賜物です。この場を借りて、深く、深く感謝申し上げます。

ご存知のように、今年の日中交回復45周年という記念

すべき年であります。過ぎ去ったこの45年間には、色々なことがありました。これからも「順風満帆」にはならないかもしれない。しかし、幸い国の将来がどの方向へ向かって行くかを決めるのは若者です。現在の大人ではありません。本日の日中両国の若者の討論を聞き、私のような大人も大変勇気づけられました。日中関係の未来に、明るい兆しが見えてきました！ 大変嬉しく思っております。

最後になりますが、本日の討論会に参加するために、わざわざ私費で中国から飛んできてくれました天津外国語大学代表の王儷舒さん、大連大学代表の呉婷妍さん、ならびに本日の会場受付、案内などに力を貸してくださいましたボランティアのWLA C スチューデントの皆様方に、感謝の意を込めて盛大な拍手をお願いたします。

谢谢大家！

## 来賓

愛知県立大学外国語学部 吉池孝二学部長、鈴木隆准教授  
愛知大学現代中国語学部 安部悟学部長、李春利教授  
愛知県華僑華人総会 趙良行会長、任房代副会長  
日中文化協会 上山伸治理事長

## 参加者

討論会

交流パーティー

192名（うち学生139名）  
76名（うち学生19名）

## 終わりに 交流パーティーでの声

三時間に及ぶ「第三回日中大学生討論会」が終了した後、名古屋外国語大学7号館の1階食堂で交流パーティーが開催された。討論会に出場した学生代表計八名をはじめ、教職員・学生や後援団体代表者、一般の方々など約八十名が参加し、名古屋外国語大学現代国際学部国際教養学科二年の中川琴音さんが司会を務めた。

冒頭は友情出演で駆け付けた中国琵琶の世界的奏者である涂善祥氏、名古屋市在住の「見事な演奏に続いて、声楽家の涂夫人、矢野留美さんによる声楽が披露され、会場の雰囲気盛り上げた。その後、名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター(WLAC)の副センター長である佐藤都喜子教授が、「世界は予測不可能な時代に入ったが、このような時代だからこそ、これからの日中関係を両国の若者が担ってくれることを切に祈る」と開会のあいさつを行った。続いて後援団体の愛知華僑華人総会の趙良行会長が「日本と中国の関係は必ずしも良好とはいえないが、こうした討論会が実現したことは喜ばしい」と述べた。また、討論会に学生を派遣した愛知大学の李春利教授が「名古屋の大学同士が連携し、中国の学生たちと率直に意見交

換したことは大きな意義がある」と称えた。中国在名古屋総領事館から李穎領事はじめ四名が討論会に引き続き交流パーティーにも出席し「日中国交正常化45周年の節目に、ピンボン外交発祥の地の名古屋で、こうした大学生同士の三回目の討論会が行われたことは尊い」と評価していた。パネリストの天津外国語大学の王儷舒さんは「日本語で意見を発表するのは緊張したが、日本人の学生も本音で発言してくれてお互いの理解が深まった」と笑顔で述べた。



司会の中川琴音さん



交流パーティーであいさつをする佐藤都喜子教授

大連大学の呉婷妍さんも「一年間留学した名古屋外国語大学を再訪し、パネリストとして自分の考えを披露することができて嬉しい」と語った。パネリストの日中両国学生が今後はLINEで連絡を取り合おうと友情を誓い合ったのは、貴重な成果である。参加した市民も「こうした両国の若者の交流は貴重で、今後も続けてほしい」などと要望していた。

最後に、討論会実行委員長の川村範行特任教授が「今日の討論会で見せた日中両国の若者の力は素晴らしい。日中関係の未来は明るいと確信した」と閉会の挨拶を述べ、来年は中国大連市の大連大学が第四回日中大学生討論会を引き受けることが内定したことを紹介した。

討論会、交流パーティーを通じて、学生による司会のほか、学生ボランティアのWLANCスチューデント十数名が会場受付や設営・片付けなど、献身的な役目を果たしたことも特筆される。



中国琵琶を演奏する涂善祥氏（右）と、夫人の矢野留美さん（左）

〈名古屋外国語大学 学長・コメンテーター・コーディネーター プロフィール〉

**亀山 郁夫**（かめやま・いくお）

1949年、栃木県生まれ。東京外国語大学ロシア語学科卒業、東京大学大学院博士課程単位取得中退。前東京外国語大学学長。現在、名古屋外国語大学学長、文部科学省中央教育審議会委員。専門はロシア文学、ロシア文化論。主著に「磔のロシアスターリンと芸術家たち」（大佛次郎賞）、「謎とき『悪霊』」（読売文学賞）。訳書に「カラマゾフの兄弟」（毎日出版文化賞特別賞、プーシキン賞）、「罪と罰」「悪霊」など。

**高瀬 淳一**（たかせ・じゅんいち）

1958年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業、同大学院政治学研究科博士課程単位取得。名古屋外国語大学・同大学院教授、世界共生学部長。専門は情報政治学、国際関係論。著書は「サミットがわかれば世界が読める」、「武器としての言葉政治」など。NHK「日曜討論」などマスメディアでも活躍。

**真家 陽一**（まいえ・よういち）

1962年、茨城県生まれ。青山学院大学経営学部卒業。名古屋外国語大学外国語学部中国語学科教授。元日本貿易振興機構北京事務所調査担当次長、海外調査部中国北アジア課長。専門は中国マクロ経済・経済産業政策、日本企業の対中ビジネス戦略。著書は「東アジア市場統合への道」、「米金融危機が中国を変革する」など。

**川村 範行**（かわむら・のりゆき）\*編者

1951年、岐阜県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。元中日新聞・東京新聞論説委員、上海支局長。名古屋外国語大学外国語学部特任教授、同済大学顧問教授、日中関係学会副会長兼東海日中関係学会会長。専門は日中関係論、現代中国論。著書に「中国社会の基層変化と日中関係の変容」、「ピンポン外交の軌跡～東京・北京、そして名古屋」など。

## 第三回日中大学生討論会 主催・共催・後援

主催 名古屋外国語大学、名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター  
名古屋外国語大学中国語学科

共催 中日新聞社

後援 東海日中関係学会、日中文化協会、愛知華僑華人総会、  
中国在名古屋総領事館

## 第三回日中大学生討論会実行委員会

(名古屋外国語大学、肩書は当時)

顧問	亀山 郁夫	学長、ワールドリベラルアーツセンター長
委員	川村 範行	外国語学部特任教授
	兪 暁軍	外国語学部中国語学科長
	佐藤都喜子	現代国際学部国際教養学科長、 ワールドリベラルアーツセンター副センター長
	林 慶雲	現代国際学部国際ビジネス学科教授
	横山 陽二	現代国際学部国際教養学科准教授
	鈴木 瑠美	中国語学科助手
	戸田 都	ワールドリベラルアーツセンター職員

---

## トランプ時代の日中関係 第三回日中大学生討論会

---

2017年12月13日

©編 名古屋外国語大学  
編者 川村範行  
発行者 名古屋外国語大学  
発行所 株式会社 クイックス